

横浜みなとみらいホール 令和５年度指定管理業務評価シート（外部評価）

	石田委員	伊藤委員	佐々木委員	箕口委員	吉本委員
使命１ 市民が多様な音楽に親しむ機会を提供し、国内外から高い評価を受ける創造・創作の拠点となります。	<p>【評価する点】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・「プロデューサー・イン・レジデンス事業」を立ち上げて展開し、新たに芸術的な軸を確保、さらに初代と第２代の引継ぎを公開する機会を設けて、広く印象づけたことなどは、他館にも参考になるような取り組みだと思います。また、初代は３つ、第２代は４つの事業項目をプロデュースされたことも、特筆すべき取り組みだったと考えます。石田組のように幅広いファン層を持つアーティストとのコラボレーションも、多くの聴衆獲得に寄与したと思われます。事業モニター制度を取り入れて、主催事業の視察をつうじた意見聴取をおこなって、今後の事業展開の参考としている点も評価できます。</li></ul> <p>【更なる取組を期待する点】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・アーカイブ事業を開始されていますが、公演等事業の実施とは異なる仕事で、時間も手間もかかる活動かと思います。今後の継続が望まれるものの、少しずつ着実にという姿勢で取り組まれるとよいかもしれません。</li></ul>	<p>【評価する点】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・リニューアルオープン、開館 25 周年と記念行事が連続したこともあり、クラシカル、ポピュラーともに R5 達成目標を大幅に超えた実績を残し、「市民が多様な音楽に親しむ機会」を提供したことを評価したい。特に、Producer in Residence 事業や、パイプオルガンとエレクトロニクス等を結び付けた Dive into the Future など「創造・創作の拠点」にふさわしい取組がなされた。またみなとみらいホール主催公演のアーカイブ化も、第 1 弾として過去 40 回にわたる横浜市招待国際ピアノ演奏会をウェブサイトで公開したことも意義がある。</li></ul> <p>【更なる取組を期待する点】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・行政評価にもあるように、Producer in Residence 事業の今後の展開、特にこれを継続的に進め、みなとみらいホールの音楽ホールとしての個性づくりにつなげていくための考え方などを確立していく必要がある。</li><li>・定性指標にある「事業モニター」について、その具体的な内容やモニターの意見の分析をぜひ進め、今後の事業に活かしていただきたい。</li></ul>	<p>【評価する点】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ホールにおける公演ではクラシカル、ポピュラーともに公演数、入場者数は達成指標を超えており、積極的に取り組んだことを評価します。</li><li>・プロデューサー・イン・レジデンス事業では、藤木氏と反田氏の発信力が発揮され予定を上回る事業を行えたことを評価します。</li><li>・ジャンルの異なる内容の大人ポップス公演は市民が参加しやすく、特に石田組年末感謝祭では聞きたい曲を事前に投票できるという鑑賞者に寄り添った企画を実施した点を評価します。</li><li>・アーカイブのページを公開できたことは今後の横浜みなとみらいホールの財産になるのですばらしいことです。</li></ul> <p>【更なる取組を期待する点】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ホールにおける公演は十分に指標を達成していますが、さらに望むなら横浜みなとみらいホール独自の企画した公演が継続的に行われ、他ホールのリーダーになれることを期待します。</li></ul>	<p>【評価する点】</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1.Producer in residence 事業</li><li>・「方針 1」の「制作する演奏家」を実践するプラットフォームとして評価。</li><li>・ホール主催公演のメインコンテンツ（25 周年記念）の協働者としてのアーティストを位置付けている点を評価。</li><li>・「全国の劇場とのネットワーク」の実現を評価。</li><li>2. おとなポップス（ジャンルを超えた展開）クラシック音楽系音楽家によるポップスジャンルへの展開は、クラシック音楽をメインコンテンツとする楽団やホールの実践として本流である点を評価。</li><li>3. オルガンコンサートシリーズ、「パイプオルガンと横浜の街」</li><li>・オルガン関連企画は「ルーシー」を擁する横浜みなとみらいホールの定番中の定番、「継続は力なり」を文字通り実現している点を評価。</li><li>・「使命 1」の実践に挙げられている 2 つの企画（オルガンコンサートシリーズ、パイプオルガンと横浜の街）に加え、ホールオルガニスト制度、オルガニスト・インターンシップ、10 代のためのオルガンレッスン（以上使命 3 の実践）、使命 1 の Producer in residence 企画の一環として実施したオルガン道場の配信（使命 4 の実践）は、横浜みなとみらいホールの基本方針に沿った事業実践に多大な貢献をしている点を評価。</li><li>・特筆すべきは、開館 25 周年記念公演として行われた Dive into the Future で、残念ながら参加はできなかったが、これまでのコンサートフォーマットを更新する試みとその質感で多くの賞賛の声を聞いた。欧米を中心に進行しているコンサートフォーマットルネサンスの一翼を担うに足る、創造創作拠点としてのコンサートホールの面目躍如であった点を高く評価する。</li><li>4. 横浜市招待国際ピアノ演奏会</li><li>40 年の長きにわたり、ピアノというクラシック音楽を象徴するジャンルで新人紹介の場を提供し続けてきたこと、結果としてチケットの早期完売が続いている点を評価。</li><li>5. ジルヴェスターコンサート</li><li>1980 年代終盤に「輸入」された公演企画フォーマット「ジルヴェスターコンサート」を 21 世紀第 1 四半世紀の文脈で更新する試みを評価。</li><li>6. 横浜みなとみらいホール主催公演のアーカイブ化、その他使命 1 を達成するための主催・共催公演、評価・調査活動等</li><li>・25 年を期にこれまでの活動のデジタルアーカイブ化に着手したことを大きく評価。</li><li>・25 周年記念の演出に共催公演を効果的に活用したことを評価。</li><li>・「事業モニターによる評価」の実施を評価。</li></ol> <p>【更なる取組を期待する点】</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1.Producer in residence 事業</li><li>・プロデューサー・ミュージシャンの意図を実現するには、就任期間が短すぎはしないか？準備、実施、評価検討、聴衆への浸透を考え合わせると、就任から最低でも 5 年は必要では？</li><li>・プロデューサー提案の「全国の劇場とのネットワーク」だった由、横浜みなとみらいホールの事業方針（目的）での位置付けと成果（ゴール）、評価、今後の展開が見えにくい。</li></ol>	<p>【評価する点】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・プロデューサー in レジデンス制度を活かし、藤木大地、反田恭平両氏の企画力を活かした演奏会を実現した。とりわけ 25 周年音楽祭は、将来の活躍が期待される JNO や池辺晋一郎の新作初演など、他のホールにはない独自性の高い企画だった。主催、共催を組み合わせ、ポピュラーも含む多彩なプログラムを実施し、公演本数、入場者数とも達成指標を超える実績を残した点も評価できる。</li><li>・評価者として鑑賞した公演数は限られているが、聴衆の温かい反応が印象的で、企画そのものに加えてみなとみらいホールのファン層、顧客層が一定程度根付いている様子がうかがえる。</li></ul> <p>【更なる取組を期待する点】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・プロデューサー in レジデンスについて、過去 3 年間（＋今年）の成果や課題の振り返りを行い、第 3 代の人選やプロデューサーの役割の明確化、ホールスタッフの企画力の向上などにつなげていただきたい。</li></ul>

横浜みなとみらいホール 令和５年度指定管理業務評価シート（外部評価）

				<p>2. おとなポップス（ジャンルを超えた展開） 「石田組」による大晦日公演（22 年 12 月視察）を見ての感想ではあるが、既存のクラシック音楽ファン層（定年後の年齢層）がまだまだ多い印象が強かった。人気公演だけに、実際にどんな客層にリーチできているのかを今後観察、分析してほしい。</p> <p>3. 「パイプオルガンと横浜の街」 ホール大規模改修中に始まった、横浜に多く存在するパイプオルガンをフィーチャーしていく企画は、まさに横浜だからできること。みなとみらいホールがよきリーダーシップを発揮し、「オルガンの街ヨコハマ」を市民にも、市民以外にもアピールしていくことにも力を注いでほしい。</p> <p>4. 横浜市招待国際ピアノ演奏会 クラシック音楽といえばピアノが筆頭に来るほど、アジア地域でピアノの存在感と認知度は高い。東アジア主要都市、シンガポール、ジャカルタ、ハノイ等の東南アジアの大都市でも新人をサポートするコンクールや演奏会が近年盛んになってきている。そのような潮流の中にあって、歴史ある、コンクール形式ではない招待国際ピアノ演奏会の存在はもっと注目を集めてよい内容なので、「使命 1 …国内外から高い評価を受ける創造拠点となります」の具体として本企画を位置付けて活用してみてもどうか。主催公演アーカイブの第 1 弾として本企画の公演記録から着手したのは慧眼であり、この記録から明らかになる本企画の実績と評価を専門家に依頼して、発信力を強化することを期待する。</p> <p>5. ジルヴェスターコンサート 「アニヴェアサリー（モノ日）」型公演フォーマットの典型として、市民の公演鑑賞習慣の分析を期待する。年中行事としてのコンサート鑑賞は、依然としてコンサートホールに足を運ぶ主要動機となっているのかどうかは今後の公演企画の指針の一助にもなるだろう。</p> <p>6. 横浜みなとみらいホール主催公演のアーカイブ化、その他使命 1 を達成するための主催・共催公演、評価・調査活動等</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・使命 1 の定性指標として「横浜みなとみらいホールの事業等のアーカイブ作成と公開」が位置づけられている意図がいまひとつ見えにくい。 定性指標として用いられるべきは、アーカイブの作成とともに行われるべきアーカイブされた内容の分析、および外部評価ではないかと考える。ただし、アーカイブの分析と評価は単年度で行うものではなく、かつ、今回アーカイブ化された「横浜市国際招待ピアノ演奏会」の 40 年のようなボリュームで「研究者や市民に公開（資料 2、p. 2、評価項目 8 より引用）」するだけではなく、複数年度にわたる取組みについて、ホール主導の「評価・調査活動」として、「攻めの発信（広報）」にこそ用いるべきではないか。</li><li>・使命 1 の定性指標としての「事業モニターによる評価」について、「資料 1 p. 9、イ-1 の R5 実績」にある記述は、実施報告に留まっている。定性指標が求めているのは、事業モニターの結果と分析、その後の対応についての報告ではないかと考える。</li></ul>	
--	--	--	--	---	--

横浜みなとみらいホール 令和５年度指定管理業務評価シート（外部評価）

	石田委員	伊藤委員	佐々木委員	箕口委員	吉本委員
使命２ 市民や文化団体の音楽活動を支え、 音楽専門ホールとしての活動の場を提供します。	<p>【評価する点】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・利用者の満足度アンケートの結果が５点満点で４．８点と高い数字を獲得していることは大いに評価できる点だと考えます。合唱祭や吹奏楽コンクールの会場となったとのこと、若手や一般の方々が利用することで、ホールに対する親近感が芽生え、演奏者としてだけでなく、聴衆としての顧客層にもつながっていくと期待できます。</li><li>・協力公演の誘致が目標数を大幅に上回っています。優れた音響や立地、適切な座席数など、ホールの持つ力が活かされただけでなく、再オープン の話題性も手伝ったとのこと、各団体を迎えるための努力が成果につながったのだとも思います。</li></ul> <p>【更なる取組を期待する点】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・利用団体に対する調査結果はとくには公開されない予定とのことですが、組織内で今後の活動に反映していただければと思います。継続していくといろいろなことが見えてきそうです。</li></ul>	<p>【評価する点】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・協力公演の誘致努力もあって、主要オーケストラの横浜での定期演奏会も定着し、また大・小のホールの利用率も高く、「プロに選ばれるホール」の地位は確立しつつあることは評価できる。</li></ul> <p>【更なる取組を期待する点】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・リハーサル室、音楽練習室の利用率の伸び悩みの原因は？市内 500 団体への調査で分かったこと、例えば利用者像のズレ等(プロ音楽家と、市内の利用者のそれぞれ求めている機能など)を分析し、単に公演の場としてだけでなく、新しい表現の創造や訓練の場としての利用も、コーディネート業務等を通して促進してもらいたい。</li></ul>	<p>【評価する点】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・プロフェッショナルの公演数が年度予定 90 公演を上回る 95 公演を実施できたこと、大ホール、小ホールともに高い利用率となったことを評価します。</li></ul> <p>【更なる取組を期待する点】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・リハーサル室、音楽練習室およびレセプションルームは、令和 8 年度達成指標に届くよう工夫を期待します。</li></ul>	<p>【評価する点】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・資料 1 p. 13 指定管理に係る業務方針の (1) 基本的な方針にある方針 1 に記述されている「演奏する市民」の実現として、協力公演の誘致に取組んでいる点、特に市民団体へのサポートを積極的に行うコーディネーター機能を持っている点を評価。</li><li>・協力公演を、横浜ローカルのプロフェッショナルとの協働関係構築に活用している点を評価。</li><li>・ホール利用者の実態調査を行い、利用者の潜在ニーズの把握に取り組んだ点を評価。</li></ul> <p>【更なる取組を期待する点】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・これらの業務を担っているのは、経営グループ／運営チームの業務バランスが気になる。手厚いサービスは結実しているが、担当職員に荷重がかかりすぎないよう、運営チームの他業務とのバランスには配慮を。</li></ul>	<p>【評価する点】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・協力公演の 4 つの基準のうち①②に重点を置いた運営は、使命 1 を補完するとともに、音楽専門ホールとしての存在価値を高めることにつながり、それが基準の③④の利用促進にもつながっていると考えられる。</li><li>・主要施設の大ホール、小ホールはいずれも 95% を上回る高い利用率である一方、利用率が目標を若干下回った施設もあるが、許容範囲だと考えられる。</li></ul> <p>【更なる取組を期待する点】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・大ホールで利用実績のある 500 団体を対象に実施した調査の結果を活かし、プロオーケストラとは互いに高め合えるようなより親密な関係構築を図るとともに、市民の文化団体に対しては、スムーズな貸館利用をベースとしつつ、舞台技術者による適切な支援に加えて、可能な範囲で企画内容へのアドバイス、コーディネートなども行い、みなとみらいホールが活動の継続とさらなるレベルアップに寄与するよう務めていただきたい。</li></ul>

横浜みなとみらいホール 令和５年度指定管理業務評価シート（外部評価）

	石田委員	伊藤委員	佐々木委員	箕口委員	吉本委員
使命３ 次世代を担う芸術家や音楽と社会をつなぐ人材を育むとともに、音楽に親しむ市民の裾野を広げます。	<p>【評価する点】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・中学生プロデューサー事業について、事業に参加した中学生たちは、いつかなんらかの形でホールに戻ってきてくれるものと思います。継続的に参加する生徒さんに対して、指導者側も成長していかなければならないと課題を認識されておられます。一定の緊張感をもって互いに関わり、育ち合うことはよい刺激になるものと考えます。また、大学生のインターンシップは将来を見据えてホールの仕事を経験させていただける制度ですので、学生たちにとっては大変ありがたいものです。連携先の拡大については幅広い人材へのリーチという意味で意義があることだと思います。</li></ul> <p>【更なる取組を期待する点】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・主催公演への子供の来館者数が目標に達しなかったのは、高校生以下の実数をカウントする仕方が難しかったことが理由とされました。今後、実数の把握に向けたアイディアが必要となりそうです。</li></ul>	<p>【評価する点】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・中学生プロデューサーからオルガニスト養成、中高生のジャズ・ビッグバンドなど、多岐にわたる次世代人材の育成事業も、その OB/OG の活躍が見られるなど成果をあげている。「演奏する人・聴く人・つくる人」という固定化を無くしていく一歩として評価したい。</li></ul> <p>【更なる取組を期待する点】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・中学生プロデューサー事業の３年間の中間総括をし、今後の進め方（「こどもの日コンサート」中心の進め方など）を、参加した OB/OG も交え検討してもいいのではないかと。</li></ul>	<p>【評価する点】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・中学生プロデューサーの起用、ファシリテーターとして大学生の育成、インターン受け入れなど、次世代を担う層の育成の場となっていることを評価します。</li></ul> <p>【更なる取組を期待する点】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ホールオルガニスト制度は、パイプオルガンがある横浜みなとみらいホールならではの事業なので継続して行ってほしいと思います。</li></ul>	<p>【評価する点】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・資料１ p.13 指定管理に係る業務方針の（１）基本的な方針にある「方針１」に記述されている「あらゆる世代の市民が創造性を発揮」するためのプラットフォームとして、「中学生プロデューサー／こどもの日コンサート」、「みなとみらいスーパービッグバンド」を継続的に提供している点を評価。コンサートホールが市民自身の芸術発信の場となる活動は、横浜みなとみらいホールの根幹である「公演事業」と並び立ち、運営の基本方針と使命の実践に寄与している。</li><li>・ホールオルガニスト制度については、「使命１」の評価する点で記述。</li><li>・いわゆる「市民（ここでは主にこども）参加型」事業と「演奏家やスタッフの次世代育成」事業をいずれも「次世代を担う若年層」と位置付け、ひとつの使命として実践する姿勢を評価。業務報告の記述で『演奏する人・聴く人・つくる人』と固定しがちな立ち位置を越え、柔軟で自由に…（中略）音楽に親しむ」と繰り返しているホールとしての姿勢がよく反映されている。</li><li>・定性指標として、「子どもの頃や若手の頃に横浜みなとみらいホールで活動を行い、横浜みなとみらいホールから活動の場を広げていったアーティストの状況把握」を挙げ、「金の卵見つけました」のソリストオーディション受賞者83名をリスト化、現在の活動把握を行なったこと、その結果をもとに自主事業への登用に活かしたことを評価。演奏家の次世代育成には「長い目」を持つことが肝要であり、オーディション等で起用した演奏家のその後を注視し続けることを、ホールとして使命達成の指標に掲げたことそのものが、画期的である。</li></ul>	<p>【評価する点】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・スーパービッグバンドなど、次世代の演奏家の育成に加え、中学生プロデューサーやアートマネジメント人材のインターン受け入れなど、音楽と社会をつなぐ人材、すなわち将来の音楽界の活性化や音楽ホールの運営につながる人材の育成を視野に入れた取組を評価したい。</li></ul> <p>・金の卵シリーズの受賞者に「石田組ジュニア」での演奏機会の提供したり、過去の受賞者のランチタイムコンサートへの招聘したりする取組は、音楽専門ホールならではの貴重な演奏家の育成事業と言える。</p> <p>【更なる取組を期待する点】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・容易ではないと思うが、音楽専門ホールとして、将来の日本の音楽界を支えるトップレベルの演奏家や音楽家の発掘や育成につながるようなプログラムも視野に入れて、長い目で取り組んでいただきたい。</li></ul>
使命４ 年齢、性別、国籍、言語、障害の有無、経済的状況等にかかわらず、あらゆる人達が音楽に触れる機会を創出します。	<p>【評価する点】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・インクルーシブ事業に強みを持つホールとしての取り組みが、継続的かつ多角的におこなわれたことに敬意を表します。実施にあたっては細やかな対応や多くの知見も必要な中、他館の手本となるような事業展開をこれからも望みたいです。</li></ul> <p>【更なる取組を期待する点】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・横浜 Web ステージ（今回は無人オーケストラ）の拡大についてはホール独自の企画として大事だと思いますので、費用などの手当も検討しながら、進めていただく必要がありそうです。</li></ul>	<p>【評価する点】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・様々な障がいがある人に向けての多彩な取組（「みなとみらい遊音地」「だれでもピアノ」など、東京芸大との連携事業や、WEB ステージなど）には敬意を表したい。</li><li>・乳幼児も含め、学校へのアウトリーチ等、子どもへのアプローチもきわめて充実している。</li></ul> <p>【更なる取組を期待する点】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・障がい者に向けては（ロータリークラブの協力による来場者サポートは評価したい）、ホール内だけで無く、ホールへ来るまでのサポート（情報提供、予約、ホールまでの同行アシストなど）も検討されたい。</li><li>・（一挙に取り組むのは難しいが）「年齢・障害の有無」以外の問題、特に「国籍・言語」や「経済的状況」についても今度可能な取組について検討されることを期待したい。</li></ul>	<p>【評価する点】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・「だれでもピアノ」「音と光の動物園」「ミュージック・イン・ザ・ダーク」など、高齢者、障がい者、子育て世代を対象とした事業を実施、特に「音と光の動物園」「ミュージック・イン・ザ・ダーク」は５回目ということで継続して実施できていることを評価します。</li><li>・学校プログラムでは、校長会へ出席するなど教育委員会との連携を行った点を評価します。</li></ul> <p>【更なる取組を期待する点】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・公開リハーサルは調整が難しいようですが、継続開催ができるよう努力していただきたいと思います。</li></ul>	<p>【評価する点】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・使命４は、今や公立文化施設ならどこでもが掲げる「社会包摂」の実践を強く打ち出したものであるが、「言うは易し、行うは難し」の典型でもある。横浜みなとみらいホールはその実践にいち早く取組み、実績を積み上げてきていることを高く評価する。</li><li>・コロナ禍に力を発揮した「横浜 WEB ステージ」を使命４の実践に継続的に活用していることを評価。ホール制作のウェブコンテンツの独自性という点でも、他に抜きん出て充実していることも高く評価。</li><li>・定性指標に、「社会包摂」系事業のこれまでの実績のまとめ（一覧作成）と事業実施マニュアルの作成を挙げ、これを実現したことを評価。ともすれば実践したことだけで諒としがちなこの種の事業に振り返りの契機として手順書（マニュアル）作成を持ち込んだことは画期的である。</li></ul>	<p>【評価する点】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・だれでもピアノやミュージック・インザ・ダークなどの継続事業に加えて、東海大学機構との共同研究、東京藝術大学との連携、「オルガン道場」の動画配信など新しい取組を展開している。0 歳からのコンサートや特別支援学級向けの事業など、通常の演奏会以上に気遣いやきめ細かな対応の求められる事業にも前向きに取り組んでいる。</li></ul> <p>【更なる取組を期待する点】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・この使命を達成するための取組には決して終わりがなく、何かが達成できても、次の課題や目標が見えてくる、そんなことの繰り返しではないかと思う。障がい者を迎えるためのマニュアルも、作成したら OK ではなく、常に見直しや更新を視野に入れておきたい。運営財源や人的リソースに限りがある中、できることや事業数、対象者数を広げることは容易ではないが、諦めずに、ひとつひとつの事業を丁寧に遂行していただきたい。</li></ul>

横浜みなとみらいホール 令和５年度指定管理業務評価シート（外部評価）

	石田委員	伊藤委員	佐々木委員	箕口委員	吉本委員
使命５ 利用者の視点に立ち、持続可能性を高める 施設運営を行い、地域社会に貢献します。	<p>【評価する点】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>事業企画と広報チームを一体化して制作等に当たられるようになったことは、事業趣旨の設定から社会ニーズの把握が横展開しながら進められ、広報力がアップする良い方策のように感じられます。「音楽を奏でる街」として都市のブランディング確立を目指す一般社団法人横浜みなとみらい 21 が設置する「みなとみらい 21 ミュージックシティ推進委員会」に参画」されたとのこと、館の特性を活かし、地域が一体となって盛り上げる取り組みの中核組織として、様々な提案をおこなってほしいと思います。</li></ul> <p>【更なる取組を期待する点】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>カスタマーハラスメントにさらされる、最前線のスタッフの方々の心理的ケアについてはくれぐれも細やかに対応をお願いできればと思います。他館でもカスタマーハラスメント対応しなければならぬ状況になってきており、個人での対応ではなく、館として重層的な対応策を講じられるような体制や工夫が必要となっていることをぜひご認識いただければと思います。</li></ul>	<p>【評価する点】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>施設管理については、特に高齢化に向けた安全・安心対策や夜間少人数時の地震対応などキメ細かく対処しており評価する。またみなとみらい地区における他施設との連携や、ステーションコアコンサートなどの地域全体の活性化に向けた取組なども評価に値する。その他レセプションистををはじめ人材育成・配置についても努力している。</li></ul> <p>【更なる取組を期待する点】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>広報については、事業告知・観客動員につながるものだけでなく、今日の社会における文化芸術施設、コンサートホールの意義や役割、またそうした観点から取り組んでいる社会的包摂活動や MM 地域における活性化への寄与等についても訴えていく必要がある。</li><li>「カスタマーハラスメントに該当する」トラブルの具体例については、(一般的な接客サービス業における問題は他業界の対策も参考に対処すればいいが) 文化芸術関係、特にコンサートホール特有の問題があれば、他の文化施設やコンサートホール関係者と連携して課題を洗い出し、対策を考えていく必要がある。</li></ul>	<p>【評価する点】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>施設の管理瑕疵に起因する事故件数は 0 件、法定点検等の実施率 100%、達成指標 2 回の災害訓練の実施は 3 回と、安心、安全を第一に考える施設維持管理ができている点を評価します。</li><li>レセプションист研修、受付スタッフのスキルアップ研修、経験豊かな舞台装置スタッフ、警備員の増員など、利用者が安心して楽しめる対策をしっかり実施している点を評価します。</li><li>ウェブサイトにもスケジュールや内容が載っており、そこから申し込みもできるのは利用者にとって便利でありがたいと思います。</li></ul> <p>【更なる取組を期待する点】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>カスタマーハラスメントが増えているとのことで、横浜みなとみらいホール管理者だけではなく、国や公文協と情報交換をして問題なく対処できるよう期待しています。</li></ul>	<p>【評価する点】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>使命 5 の評価項目は極めて多岐にわたり、劇場運営にあたってひとつとして落とせない管理運営に関わる事項が網羅されている。全般として、優れた運営が行われている。公の公演会場として、公演提供者と聴衆の安全をまず念頭に起きつつ、日々の運営と施設管理維持に衷心している点は、開館当初から変わらない心意気として評価。いつもお疲れさまです。</li><li>広報 PR チームを事業企画グループに位置づけ、横浜みなとみらいホールの主要事業との連携を密接に図ろうとしている点を評価。</li></ul> <p>【更なる取組を期待する点】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>文化庁補助金の減額は、首都圏を中心に他ホールでも起こったことなので、その因を内部に求める必要はないと考えるが、今後こうした事態がまた起こったときのための対策やセーフティネットの構築に取り組む必要性は感じる。</li><li>ホールの広報 PR の役割は、公演宣伝と券売への貢献というセールスプロモーション面に目が行きがちではあるが、ホールそのものの広報周知がその根本にあり、ホールの特徴や特質、独自性について、過去・現在・未来形で語り、印象づける戦略の実践の最前線を担うことになる。このように毎年行われる業務評価の場においても、ホールが如何に対外的に「自己主張」を行い、それにマスメディアからネットメディア、草の根メディアが反応し、ホールが注目されるに至ったかが広報の実績として注目したい点でもある。発信力強化にむけての獲得目標を定め、その実現のための方策に「柔軟で自由に」取り組んでほしい。</li></ul>	<p>【評価する点】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>施設の運営管理は、リニューアルオープンからの変更への対応、光熱水費の適切な執行、危機管理マニュアルの更新、レセプションистの接客サービスの向上への取り組みなども含め、全般的に適切に行われていると思われる。</li></ul> <p>【更なる取組を期待する点】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>利用者目線に立ったサービスの向上に加え、安心・安全にホールを利用いただくためには、昨今の異常気象や発生の可能性が高い大地震などへの備えも欠かせない。危機管理マニュアルの定期的な見直しや更新、災害訓練の着実な実施などを含め、ホールスタッフが常に危機感を持って事業や運営にあたるのが何より肝要だと思われる。昨今、国内外の文化施設などで関心の高まりつつある気候変動への取組についても、まずは勉強会を開催するところからでも良いので、みなとみらいホールとしてできることを検討し、具体的なアクションにつなげていただきたい。</li></ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"><li>文化庁補助金額の減少が収支に直接影響を与えているようです。なるべく金額に変動がないよう情報収集なども引き続きおこなっていただければと思います。光熱費の予算が立てにくいという現状もふまえていく必要がありそうです。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>25 周年ということもあってか（また財団職員の人事異動が増額したこともあり）、当初予算の段階から支出が収入を大きく上回る赤字予算だったことに加え、文化庁助成金の計画を大きく下回り、さらに赤字が増えたことは今後に向け検討を要する。特に、文化庁助成金については近年 2～3 年おきにスキームの変更があり不確実性が高くなってきていることから、それへの依存率を減らし、市民や企業等民間の支援者の組織化などを通して、安定的な外部資金の確保を検討していくことが求められる。</li></ul>	<p>収支予算書および報告書</p> <ul style="list-style-type: none"><li>最後の差引がマイナスの予算額について、国庫補助金の減額や様々な経費の高騰でやむを得ない事情があったこと、横浜市に改善計画書を提出したとのことと理解できました。次年度以降は、収入に見合った予算の計画を期待します。</li><li>収入の民間協賛金・助成金・寄付金は増額になっていますが、横浜みなとみらいホール指定管理者の皆さんの努力の成果ということであれば素晴らしいことです。</li></ul>		<ul style="list-style-type: none"><li>収支報告書によれば、文化庁の補助金の大幅削減によって、収入は予算から約 2,300 万円の減。一方支出は、光熱水費が 4,000 万円と大幅に節減されて、全体として約 2,100 万円の減となっているものの、25 周年音楽祭の事業費は予算を 900 万円以上、上回っている。光熱水費の節減は自助努力ではなく、機器更新などによってもたらされたものであることを考えると、収支状況について、文化庁など補助金のリスク把握、事業支出の厳密な管理に取り組んでいただきたい。</li></ul>

横浜みなとみらいホール 令和５年度指定管理業務評価シート（外部評価）

	石田委員	伊藤委員	佐々木委員	箕口委員	吉本委員
総括	<p>・コロナ禍から立ち直る時期にあたり、ホールの強みを活かし、外部機関と協力しながらの貸館事業、インクルーシブ事業、さらにプロデューサー イン レジデンス事業や中学生のプロデュース事業など、多くの事業に積極的に取り組んでおられます。事業数も多いため、体制に照らして、適切な事業数や事業内容を精査のうえ、みなとみらいホールだからこそ可能な事業を慎重に取捨選択しながら、働き方改革の影響などで限られた人的な資源を活かしていただきたいとします。</p>	<p>業務評価シートの構成が、前回の文化事業、専門ホールの提供、施設運営、施設管理、収支、その他から、５つの使命への指定管理者提案の実績を中心としたものに大きく変わったが、</p> <p>・これまで文化事業にまとめられていた専門ホールの様々な取組が使命 1～4 という形で達成目標が明確になり、各使命達成に向けた取り組みの実施状況が分かりやすくなった。</p> <p>・他方、使命 5 に施設管理や収支、広報などがまとめられ、提案ごとに区分けされているもののやや煩雑で分かりにくい。</p> <p>評価の項目のあり方は、今後も検討していく必要があろう。</p>	<p>・令和５年度の各使命がほぼ達成できていることを評価します。</p> <p>・次世代の育成は音楽文化の活性化になるので継続して事業を実施していただきたいとします。</p> <p>・多くの人が満足する質の高い事業を計画実施していくことは大変だと思いますが、今後も目標に向けて進んでいくことを期待します。</p>	<p>今回の業務報告では、５つの使命とその実践との関係が大変分かりやすくなりました。横浜みなとみらいホールの取組全体の見晴らしが開ける業務報告となったことにまず言及しておきたいと思います。市担当者およびみなとみらいホールでこの業務報告のまとめに携わった方々に感謝します。</p> <p>本報告で得られた見晴らしから、横浜みなとみらいホールの取組みの特徴と優れた点がより明確になりました。個々の評価については、上記の各使命の評価コメントの通りです。同時に、今後の取組みを期待したい点も明らかになったように思います。これも個別にコメントしています。</p> <p>今回、横浜みなとみらいホールの「美点」として明らかになったと思われる点を挙げます。</p> <p>・舞台芸術施設としてのホールの使命の根幹をなす「公演事業」や「次世代育成」、「社会包摂」の実践として行われる各企画の性格づけが、基本方針と使命に基づいて、明解なものになっている。</p> <p>・ホール四半世紀の蓄積で育ててきた各企画（オルガン関連企画、横浜市国際招待ピアノ演奏会や「金の卵見つけました」、スーパービッグバンド、こどもの日コンサートと中学生プロデューサー）が、地道な「看板」企画として横浜みなとみらいホールの特徴と独自性を示すと同時に、次世代育成のプラットフォームを提供し、芸術音楽の未来を支える拠点ともなっている。</p> <p>大勝利ではないけれど、負けない試合で確実に勝ちを積み重ねている、というのが、今回の業務報告から受け取ったメッセージです。その中でひとときわ輝いていたのが、25周年記念のオルガン企画 Dive into the Future でした。企画制作側にはさまざまな振り返りがあると思いますが、この公演で取り組んだことの中にまだ見えてこないコンサートホールでの公演フォーマットの未来があります。この萌芽を大切に育てて、創造の場としてのホールの明日を確実なものにしてください。</p>	<p>・５つの使命、それぞれを達成するために着実な取組が行われている。リニューアルオープンの後、25 周年音楽祭など企画力に優れた事業のみならず、協力公演などによる多彩な演奏会の実現、インクルーシブな事業展開など、国内有数の音楽専門ホールに相応しい事業、運営がなされている。５つの使命は、市民にとってわかりやすく、また、幅広いステークホルダーからも共感を得られるであろうことから、今後も、使命の実現に向けて、より積極的な事業展開や着実な運営を心がけていただきたい。</p>



令和5年度 横浜みなとみらいホール 指定管理業務計画表兼評価表（自己評価・行政評価）

使命欄	使命1 市民が多様な音楽に親しむ機会を提供し、国内外から高い評価を受ける創造・創作の拠点となります。				
	評価項目	令和5年度計画		実施状況	
	指定管理者提案(要旨)	取組内容	年度目標 年度予定	年間実績	説明
1	「Producer in Residence」事業 ・若手日本人ソリストに「ミュージシャン・プロデューサー」の役割を依頼、演奏家がホールスタッフと協力し、2年間の委嘱期間中に事業計画から協賛獲得、集客までの過程をプロジェクトとして実施。 ・演奏プログラムでは音楽家の創造性を重視し、期間内で3本以上のコンサートを通じて横浜みなとみらいホールの顔として活動。 ・オーケストラ公演では協奏曲のソリストとして、横浜オリジナル公演を実現する。	■藤木大地プロデュース事業の実施 ①横浜うたまつり(使命1-2参照) ②藤木大地 & みなとみらいクインテット ※主催公演としては令和4年度事業として実施 ③みなとみらいアコースティックス  ■反田恭平プロデュース事業の実施 ④オルガン道場 ⑤横浜みなとみらいホール25周年音楽祭	①～⑤実施	【藤木】 ■①②③実施   【反田】 ■④⑤実施	【藤木大地プロデュース】 ①4/21 使命1-2  ②協力事業として全国3会場で実施 ・5/3 りゅーとびあ室内楽シリーズNo.49 藤木大地 & みなとみらいクインテット @新潟市民芸術文化会館りゅーとびあ コンサートホール(新潟県) ・5/21 ムジックフェストなら2023 藤木大地 & みなとみらいクインテット@大和高田ささんかホール大ホール(奈良県) ・8/6 藤木大地 & みなとみらいクインテット @横須賀芸術劇場(神奈川県)  ③協力事業として下記会場で実施 ・7/29 バロー文化ホール(多治見市文化会館)リニューアル記念事業 みなとみらいアコースティックス2023 @バロー文化ホール 大ホール(岐阜県) ・主催事業として、8/31 大ホールにて実施  【反田恭平プロデュース】 ④指導：近藤岳 レッスン7/25～1/7 ※非公開 映像にて後日配信 公開の成果発表を⑤の中で3/24実施  ⑤25周年音楽祭の詳細日程は下記の通り 【大H】 3/19 JNOロマン派協奏曲前夜祭演奏会 3/22 中学生招待 JNO新曲演奏会公開リハ 3/23 特別支援学校招待JNO新曲演奏会公開ゲネプロ 3/23 JNO新曲演奏会 3/24 オルガン道場  【小H】 3/20 ミュージック・イン・ザ・ダーク® 使命4-1 3/21 プラームス 室内楽演奏会 3/22 徳永二男無伴奏演奏会 3/24(3回) 室内楽リレーコンサート  【レセプションルーム】 3/19 あなたが贈る音楽 岡本誠司 3/20 あなたが贈る音楽 反田恭平  3/19-24(7回) キヤンドルイベント  3/23 JNOメンバーによるお迎え演奏  【アウトリーチ】 3/24QSYステーション・コアコンサート(3回)
2	おとなポップス(ジャンルを越えた展開) ・全横浜市民が音楽に触れる施設を目指すため、「横浜音楽祭」や「街にひろがる音プロジェクト」の成功を踏まえ、オールジャンルの演奏会等を企画・実施。 ・ミュージシャンとオーケストラの交流演奏会を通じて、横浜みなとみらいホール特有の音響で聴くポップスの魅力を広める。 ・周辺のエンタテインメント施設と共に、音楽を中心としたエンタテインメント都市の核として、横浜みなとみらいホールの存在感を一層高める。	■①～③実施 ①横浜うたまつり ②お城EXPOスピンオフコンサート ③石田組 年末感謝祭2023(使命1-6)	①②③実施	①②③実施	①4/21 横浜うたまつり ②11/28 お城EXPOスピンオフコンサート ③12/31 石田組 年末感謝祭2023(使命1-6)
評価					
自己評価			行政評価		
【成果】 初代プロデューサー藤木大地は、プロデューサー最終年となった令和5年度に、3つの事業に取り組みました。  一つ目は、ホールが掲げる「おとなポップス」事業の実践として「うた」をテーマにした多ジャンル融合の公演です。ミュージカルやオペラのファンなどホールの門戸を広げ、最高の音響で音楽を届けることができました。  二つ目は藤木の掲げたプロデューサー活動の2本の柱のうち、「全国の劇場とのネットワークینگ」を目的とした事業です。ホールで制作した室内楽公演を新潟、奈良、横須賀と3か所の地方公共ホールの主催公演として展開し、横浜みなとみらいホールの企画力と創造性を地方に向け発信すると共に、地方公共ホールとの関係構築を図りました。  三つ目は藤木の最後の事業となった「みなとみらいアコースティックス」です。初代プロデューサー藤木と第2代プロデューサー反田恭平の共演により、プロデューサーの交代を公演から発信。公演は完売となりました。併せて本事業でも岐阜公演を先方主催公演として開催し、ホールの存在感を示すことができました。  第2代プロデューサー反田恭平は、①ホールの魅力発信、②独自企画への挑戦、③次世代育成、④共生社会の4つを活動の趣旨とし、「25周年音楽祭」等、ホールと共に事業をプロデュースしました。  「ホールの魅力発信」として取り組んだのが、ホールオルガニストの近藤岳を講師に半年にわたり行った「オルガン道場」です。反田が鑑賞者と同じ目線で「初めて新しい楽器に挑戦する」姿が共感をよび、配信動画は約2週間で10万再生を超えました。「25周年音楽祭」で実施した公開レッスン「オルガン道場」公演も大盛況となり、ホールの象徴的存在のパイプオルガンを力強く発信しました。  3月19日から24日にかけて開催された「25周年音楽祭」では、ホールが今まで制作してきたさまざまなリソースを、反田と共にフェスティバル仕立ての凝縮した形式でお客様に届けることとし、6日間で27企画を実施、のべ11,192人のお客様をお迎えしました。27企画には4つのテーマと、ホールの歴史が詰まっており、25周年に相応しく、創造・制作の拠点としての存在感を示しました前館長・池辺晋一郎へ委嘱した新曲協奏曲の世界初演は、音楽祭のハイライトとなりました。池辺への取材会や、反田による開幕記者会見など、発信機会の創出を行い、新聞をはじめとする発信に成果を得ました。  【課題】 「プロデューサーinレジデンス」事業として、ホールと各プロデューサーとが目指す姿を発信していますが、露出が単発の事業に偏り勝ちで、プロデューサーの本来の役割やプロジェクトの趣旨を継続的に示すことが課題です。 第3代プロデューサーの人選にあたっては、歴代プロデューサーの取組みの流れや、同時期の国際発信事業などを踏まえて、あらためて横浜のファン層を捉え直し、横浜の地域性を踏まえた創造性豊かな事業をともにつくりあげる演奏家を選定します。			【評価できる点】 ・クラシカル公演では横浜みなとみらいホール25周年音楽祭をはじめとする公演を41本実施、ポピュラー公演ではみなとみらい Super Big Band コンサートなどの公演を6本実施し、公演数、入場者数ともに令和5年度指標を達成しており、開館25周年というタイミングを捉えながら、市民が音楽に触れる機会を安定的に提供する姿勢を評価します。  ・パイプオルガンが主役のオルガン・コンサート・シリーズなど横浜みなとみらいホールならではの企画を市民の期待やニーズにも応えながら19本実施し、令和5年度指標を達成しつつ、企画を通じてホールの魅力発信に積極的に取り組んだことを評価します。  ・プロデューサー・イン・レジデンス事業では、初代プロデューサー藤木氏と第2代プロデューサー反田氏によるプロデュース力や発想力を最大限に生かして、連携しながら実施した結果、プロデュース公演も盛況となり、ホールの魅力発信や事業PRという結果に結びついたことを評価します。  【更なる取組を期待する点】 ・プロデューサー・イン・レジデンス事業は、歴代プロデューサーの知名度と功績もあり、注目を集める公演を多数実施していますが、今後は、継続的な事業実施ができるよう、プロデューサーの知名度や予算額りに留まることなく、横浜みなとみらいホール独自の公演内容が企画され、継続する取組みとなるよう期待します。  ・おとなポップス公演の年間企画数とは、達成指標の企画数と照らし合わせながら、企画のねらいに立ち返って、満足度やニーズの把握など実施効果の検証を行い、計画的な公演の実施につなげることを期待します。  ・目玉となる企画から引き込み、出演者や来場者の利用者全員がホールのファンになっていただくような、次につなげる仕掛けづくりが必要だと思います。他ホールからも一目置かれるホールの姿を目指すことで、横浜みなとみらいホールが国内外から高い評価を受ける音楽の拠点となることを期待します。  ・オルガンに関係する指導者や学生が減少していくなか、パイプオルガンをどう維持し続けるかが課題だと認識しています。今回の「パイプオルガンと横浜の街」事業の実施を通じて蓄積されたネットワークを活用することで、パイプオルガンの情報共有に留まらず、ホールの事業PRや情報発信にもつながり、広く事業展開することに資するものになりますので、引き続き、取り組まれることを期待します。		

令和5年度 横浜みなとみらいホール 指定管理業務計画表兼評価表（自己評価・行政評価）

評価項目		令和5年度計画		実施状況		評価	
	指定管理者提案(要旨)	取組内容	年度目標 年度予定	年間実績	説明	自己評価	行政評価
4	オルガン・コンサート・シリーズ ・開館以来「ルーシー」と名付けたパイプオルガンを活用した様々な活動を展開、市内外のオルガンを有する文化施設や国内外のオルガニストとの関係性を構築。この蓄積を基に、ホールオルガニストのネットワークを活かし、パイプオルガンと市民の関係を更に広げ、深化させる。 ・オルガンコンサートを年に約6回程度開催、23年間続いた人気企画「オルガン1ドルコンサート」は名称と料金体系を変えず維持・実施する。 ・独自の「オルガン委員会」を継続し、外部の識者のアドバイスを得ながら事業を持続していく。	<input type="checkbox"/> ①横浜みなとみらいホール開館25周年記念 Dive into the Future <input type="checkbox"/> ②オルガン・リサイタル・シリーズ47 <input type="checkbox"/> ③クリスマス・パイプオルガン・コンサート2023 <input type="checkbox"/> ④オルガン・1アワーコンサート <input type="checkbox"/> ⑤オルガン・1ドルコンサート ■オルガン委員会	①1回 ②1回 ③1回 ④3回 ⑤6回	①1回 ②中止 ③1回 ④3回 ⑤6回	①近藤岳(org)、スガダイロー(pf)、有馬純寿(エレトロクス)、大石将(sax) ②鈴木雅明氏が左肩の治療のため、公演中止 ③大平健介(org)、長田真実(org) ④第2回 三浦はつみ/第3回 中田恵子/第4回 徳岡めぐみ ⑤第239回 石丸由佳/第240回 三原麻理/第241回 高橋博子/第242回 小島弥凜子/第243回 川越聡子/第244回 田宮 亮  R4年度オルガン委員会は2023年3月14日、R5年度オルガン委員会は2024年4月7日に実施。	【成果】 出演者の事情により、1公演が中止となりましたが、第2代ホールオルガニストの近藤岳との共同企画にてパイプオルガン公演を11公演実施し、計12,358人のお客様をお迎えしました。 25周年記念事業として取り組んだ「Dive into the Future」は、パイプオルガンとエレクトロニクス等の融合で未来につながる音楽創造に挑戦するプログラムが賛否両論を得ましたが、事業モニターやオルガン委員、新聞での批評などでは、新しい取り組みへの評価を得、パイプオルガンの新たな可能性を拓きました。 リニューアルを機に新設した「1アワーコンサート」は、来場者数が当初目標を超え、お客様のニーズ把握の成果を確認できたと共に、さらなる定着を目指します。クリスマス・パイプオルガン・コンサートは完売、開館より続く「1ドルコンサート」も盛況での開催となり、市民の期待に応えることができました。 【課題】 挑戦的な取組みについては、パイプオルガン発祥の地として、またオルガンの可能性を拡張させる取組みとして、今後の実施も検討していきます。	
5	前オルガニストプロデュースによる、新ホールオルガニストとの共同事業「パイプオルガンと横浜の街」	パイプオルガンと横浜の街2023	実施	実施	「パイプオルガンと横浜の街」実施事業 ・10/6 参加公演「オルガン・ヴァイオリン・チェンバロのタペ〜J.S.バッハを源流として〜」@フェリスホール ・10/9 「ポジティブ・オルガン&ソプラノ・コンサート」@横浜山手聖公会 ・10/10 関連イベント「パイプオルガンを弾いてみよう」@神奈川県民ホール小ホール ・10/13 「チャペルコンサート」@フェリス女学院大学緑園キャンパスチャペル ・10/21 「三原麻里パイプオルガン・コンサート@東洋英和女学院大学礼拝堂 ・10/25 第4回オルガン・1アワーコンサート 徳岡めぐみ「光を待ち望んで」※使命1-4 ・10/27 参加公演「オルガン・ブロムナード・コンサート」Vol.402	【成果】 地域の文化資産であるパイプオルガンに着目し展開した「パイプオルガンと横浜の街」は当初より5年間の展開を予定しており、最終年にあたりました。地域の文化施設・教会・大学とのオルガンを通じたネットワーク構築を実現したと共に、地域の文化資産の掘り起こしや、魅力の再発見につなげることができました。 5年目の節目として、「プロデューサーズ・トーク」と題したトークイベントを開催。過去5年で紹介したオルガンを振り返り、お客様からの講評を得ました。 【課題】 今後は構築したネットワークの維持や、実施成果のアーカイブ化などに努めます。	
6	横浜市招待国際ピアノ演奏会 ・横浜の文化的な財産として40年の歴史を有するピアノ・フェスティバル。出演者はソロ演奏だけでなく、連弾演奏や市民・子どもたちとの交流事業にも参加し、音楽活動を継続するための幅広い経験を積むことができる。 ・出演者は公募により選ばれ、国内を代表する演奏家で構成された企画委員による審査を経て決定される。 ・世界的なピアノコンクール上位入賞者をいち早く日本に紹介するフェスティバル・コンセプトを前面に出して開催。	<input type="checkbox"/> ①第41回横浜市招待国際ピアノ演奏会 ■②交流イベント等	①1回 ②実施	①1回 ②実施	①11/3 招待ピアニストは下記の通り アンナ・ライレル、アルテム・クズネツォフ、イエーデン・イジク＝ドズルコ、務川慧悟  ②11/2 小中学生との交流会 ②11/4 イリヤ・イーティン 公開マスタークラス 講師：イリヤ・イーティン 受講生及び受講曲： ・西本裕矢（東京藝術大学3年）ラフマニノフ：ピアノ・ソナタ第2番 変ロ短調 作品36 ・鴨川孟平（東京藝術大学大学院1年）スクリャービン：ピアノ・ソナタ第3番 嬰ヘ短調 作品23  ①379人、②46人（交流会）、34人（マスタークラス）	【成果】 令和5年度の横浜市招待国際ピアノ演奏会はチケットが早々に完売するなど開催前より注目を集めました。国内外で活躍をする務川慧悟に加え、日本初来日の海外アーティスト3人という充実した出演者により、世界で活躍する若手演奏家をいち早く横浜市民に紹介してきた本演奏会の意義を存分に発揮するものとなりました。 次世代育成・普及事業の関連イベントに加え、滞在中には出演者4人による取材会も実施し、本演奏会を広く発信しました。また、3社の企業協賛を獲得するなど、収益の多角化にも取り組みました。 【課題】 近年では早期にチケット完売する状況が続いています。横浜市民から継承した本公演がより多くの市民に愛されるよう、将来的に大ホールでの開催を予定しています。本演奏会を応援してくださる市民の拡大を目指します。	
7	横浜みなとみらいホールジルヴェスターコンサート ・演奏家とお客様が一体となり、年を越す「ジルヴェスターコンサート」の歴史を大切にしながら、新館長のもとで、新たな社会にふさわしい「ジルヴェスターコンサート」を企画・実施。	<input type="checkbox"/> 石田組 年末感謝祭2023 ※年越コンサートからリニューアル	1回	1回2公演実施	12/31 実施 出演：石田泰尚、石田組（弦楽アンサンブル）、石田組Jr.（1回目のみ） 1回目公演は「金の卵ソリストオーディション」と連携、2023年の10歳以下の部本選出場者8名が「石田組Jr.」として出演。  入場者数：3,385人（2回）	【成果】 昨年度に続き石田組公演による大晦日コンサートは、1回目公演が完売、2回目公演もほぼ完売となりました。満足度も94.5%など、お客様からご好評をいただきました。 将来音楽家を志す8人の石田組ジュニアの出演等の次世代育成の視点を加える、リクエストコーナーを設定しお客様の意見を舞台に反映させるなどの工夫に加え、近隣ホテルとの宿泊プランやカクテルタイアップなど公演前後の楽しみ、および回遊の提案を行いました。 【課題】 顧客満足度が高くニーズのある石田組公演ですが、新規性などの視点、更なるニーズの掘り起こしも必要と考えます。	
8	横浜みなとみらいホール主催公演のアーカイブ化 ・横浜みなとみらいホールの残す記録は、単独での価値だけでなく、世界中の膨大な記録や情報と結びつくことで新たな情報価値を生む可能性がある。 ・公演や事業に関する発言、文章、楽譜、画像、映像などの記録を保存し、研究者や市民に公開します。 ・横浜の音楽文化の醸成に中心的な役割を果たし、過去・現在・未来を結ぶ「世界に向けた発信力」を支える横浜みなとみらいホールの知の基盤を厚く強固にする。	■オンラインアーカイブのシステム構築及び横浜市招待国際ピアノ演奏会のアーカイブページの作成・公開	公開	実施	9/1 横浜市招待国際ピアノ演奏会のアーカイブページを公開した。	【成果】 デジタルアーカイブの第1弾として、過去40回にわたる「横浜市招待国際ピアノ演奏会」の記録（開催日時、演奏者、演奏曲、関連イベント、チラシデータ）のデータ整備を行い、ウェブサイトにて公開しました。公開にあたっては、ウェブサイトのシステム構築を行い、今後様々なアーカイブを蓄積できるよう対応しました。  【課題】 横浜市民から継承した伝統ある事業や、開館以来継続するオルガン事業などの公開を予定しています。横浜の音楽史の一部として、今後は本サイトの利活用拡大を目指します。	



令和5年度 横浜みなとみらいホール 指定管理業務計画表兼評価表（自己評価・行政評価）

評価項目		令和5年度計画		実施状況		評価	
	指定管理者提案(要旨)	取組内容	年度目標 年度予定	年間実績	説明	自己評価	行政評価
9	その他、使命1を達成するための主催・共催公演、評価・調査活動等	<div>□①ランチタイムコンサート</div> <div>□②クリストフ・エッセンバツハ指揮 ベルリン・コンツェルトハウス管弦楽団</div> <div>□③ストラディヴァリウス サミット・コンサート2023</div> <div>□④NHK交響楽団 オーチャード定期 東横シリーズ 渋谷⇄横浜</div> <div>□⑤工藤重典フルート・スペシャル・プログラム「素晴らしいフルートアンサンブルの世界」</div> <div>□⑥セミヨン・シュコフ指揮チェコ・フィルハーモニー管弦楽団</div> <div>□⑦ウィーン・フィルハーモニー ウィーク イン ジャパン 2023</div> <div>□⑧フォーレ四重奏団</div> <div>□⑨レクチャー和洋邂逅</div>	<div>①6回7公演</div> <div>②1回</div> <div>③1回</div> <div>④3回</div> <div>⑤1回</div> <div>⑥1回</div> <div>⑦1回</div> <div>⑧1回</div> <div>⑨1回</div>	<div>①6回7公演</div> <div>②1回</div> <div>③1回</div> <div>④3回</div> <div>⑤1回</div> <div>⑥1回</div> <div>⑦1回</div> <div>⑧1回</div> <div>！⑨企画変更</div>	<div>①ランチタイムコンサート</div> <div>・周防亮介(vn)×日本フィルハーモニー交響楽団メンバーのみ小ホール2回公演、以下は大ホール1回公演で実施</div> <div>・中川英二郎(tb)×塩谷哲(pf)</div> <div>・アン・セツト・シス 山中惇史(pf)、高橋優介(pf)</div> <div>・加未 徹(バリトン)、宮地江奈(ソプラノ)、プロムジカ使節団</div> <div>・東京六人組 上野由恵(f)、荒絵理子(ob)、金子平(cl)、福士マリ子(fg)、福川伸陽(hrn)、三浦友理枝(pf)</div> <div>・辻彩奈(vn)、萩原麻未(pf)</div> <div>⑦病氣治療のため、指揮者がフランツ・ウェルザー＝メストより、トウガン・ソヒエフに変更となった。</div> <div>⑦横浜みなとみらいホール ウェブフレンズ・イベントとして関連トークイベントを実施(2回連続)</div> <div>＜音楽の都ウィーン＞を紐解く ～ウィーンはなぜ音楽の都と言われるのか？～ 講師：小宮正安(ヨーロッパ文化史・ドイツ文学研究家、横浜国立大学教授)</div>	<div>【成果】</div> <div>令和5年度は、国内外トップクラスのオーケストラ公演から、国内で注目される若手演奏家を招いた公演まで、国内有数のクラシック音楽専門ホールとしての存在感を示すラインナップを実現し、開館25周年を寿ぐと共に、横浜の聴衆を魅了しました。</div> <div>大小ホールでの公演事業のみならず、レセプションルームでのレクチャーや、レクチャー付公演の実施など、お客様のニーズを捉え普及事業も好評をいただきました。</div> <div>【課題】</div> <div>リニューアルオープン、開館25周年と2年連続で記念年が続き、華やかなラインナップが揃いました。次年度は通常運営となるため、継続事業の見直しや発展策を検討するほか、事業趣旨などを丁寧に発信していくなど、広報面の更なる強化を目指します。</div>	
		<div>■事業モニターによる評価</div>	<div>実施</div>	<div>実施</div>	<div>⑨「レクチャー 和洋邂逅」を変更し、共催事業 神奈川フィル×横浜みなとみらいホール協力企画 指揮者とオーケストラの企画責任者が紐解く「コンサートの選曲に秘められた想い」を実施@レセプションルーム</div>		

令和5年度 横浜みなとみらいホール 指定管理業務計画表兼評価表（自己評価・行政評価）

使命欄	使命2 市民や文化団体の音楽活動を支え、音楽専門ホールとしての活動の場を提供します。				
評価項目		令和5年度計画		実施状況	
	指定管理者提案(要旨)	取組内容	年度目標 年度予定	年間実績	説明
1	協力公演の誘致 ・多くの人が継続的に来館していただけるよう、4つの基準を設け協力事業の受け入れを効果的に行っていく。 ①プロオーケストラの定期公演 ②地域を中心とした音楽事業者、音楽団体による優良音楽公演 ③横浜市のシティセールスや周辺地域と連携 ④横浜市等による式典・記念公演・その他公共性の高い公演 ・また若手音楽家育成や子どもを育む鑑賞・体験・演奏技術向上につながる事業にも協力。	①～④の基準に則った協力公演の誘致  □プロフェッショナルのオーケストラ、アーティストの指定管理者主催以外の公演数	90公演	プロフェッショナル 95公演	・神奈川フィル、日本フィル、読売日本交響楽団、東京交響楽団、新日本フィル等の定期演奏会、特別演奏会等、プロフェッショナルオーケストラへの協力。 ・みなとみらいアフタヌーンコンサート、華麗なるコンチェルトシリーズ等、地元の音楽事業者との連携。 ・よこはまマリコンコンサート、横浜バロック合奏団等、地元の音楽家、団体への協力。 ・横浜開港式典、横浜文化賞贈呈式&記念コンサート、クラシックヨコハマ等、横浜市の文化政策との連動。 ・若手音楽家、子ども対象の育成事業への協力。全日本高等学校吹奏楽大会 in 横浜、かながわ音楽コンクール等、各種の器楽、声楽等のコンクールを支援。 ・協力公演全体としては129公演。このうちプロフェッショナルのオーケストラやアーティストによる公演は95公演。
2	コーディネーター機能の発揮 ・市全域の音楽文化活動拠点として、大ホールと小ホールを中心に、様々な利用を受け入れている。 ・大人数の合奏、室内楽、合唱、ソロコンサートなど、様々な演奏形態・音楽活動に柔軟に対応。また利用者が大人数のオーケストラから個人のソリストまで幅広い。これら多様な利用につき、利用の開始から終了までの一連のプロセスをスムーズで快適、かつ安全にサポート。	□①利用下見・相談件数 □②利用者アンケートによる満足度	①150 ②4.7以上 (5段階評価)	107件	
3	その他、使命2を達成するための主催・共催公演、評価・調査活動等	■第43回ヨコハマ・コーラルフェスト他	実施	実施	業務計画通り実施
		■市内音楽団体の活動状況調査	実施	実施	

評価	
自己評価	行政評価
<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・協力公演として、在京オーケストラの定期公演や地域の音楽事業者や音楽団体による質の高い公演の誘致のほか、市民団体が主催する合唱祭や横浜が誇る吹奏楽コンクールなどの大規模なフェスティバル事業を誘致しました。市民が幅広いジャンルの音楽に親しむ機会を提供し、またその運営を支援しました。</li><li>・ホールご利用団体の様々なご質問や要望に対し、現場下見をおすすめして、ご利用当日までの不明点や不安感の解消に努め、利用者アンケートによる満足度が4.8という高い評価をいただきました。</li><li>・大小ホールで利用実績のある団体のうち令和元年度から利用している約500団体に対して、組織形態、活動拠点、活動内容などを改めて調査しその活動状況や課題の把握をはかりました。</li></ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・今回の調査から見えてきた、ホールをご利用の市内音楽団体のご意見に対しては、次年度以降、ご利用者の利便性向上を中心に対応を検討していきます。</li></ul>	

令和5年度 横浜みなとみらいホール 指定管理業務計画表兼評価表（自己評価・行政評価）

使命欄	使命3 次世代を担う芸術家や音楽と社会をつなぐ人材を育むとともに、音楽に親しむ市民の裾野を広げます。					
評価項目		令和5年度計画		実施状況		
	指定管理者提案(要旨)	取組内容	年度目標 年度予定	年間実績	説明	
1	中学生プロデューサー/こどもの日コンサート ・こどもの日に開催されるオーケストラ鑑賞公演に中学生プロデューサーを導入、新たに下の視点でのイメージチェンジを計画。 ・過去のコンサートでの「こどもソリスト」等の経験を踏まえ、中学生と協力して芸術家育成につながる公演を企画。 ・中学生が企画・実施に参加し、演奏会のさまざまな役割を体験。自主性と社会性の向上をホールがサポート。 ・中学生の視点から音楽を届ける対象を設定するとともに、横浜みなとみらいホールにふさわしいクオリティで感動を届ける演奏会を作る。	■①「こどもの日コンサート」の実施 ■②中学生プロデューサー募集及び「こどもの日コンサート」実施に向けたワークショップ、ミーティング等の実施  □こどもの日コンサートに参画した中学生の人数	①1回2公演 ②実施  年8人以上 (5年間で40人以上のため)	①1回2公演 ②実施  78人	中学生プロデューサー人数については下記の通り。 ・R4年度から活動し、R5年度の「こどもの日コンサート」に関わった中学生プロデューサー30名 ・R5年度募集により、R6年度「こどもの日コンサート」に関わった中学生プロデューサー20人 ・25周年音楽祭の修了生企画「2525コンサート」に関わった中学生プロデューサー39人(修了生のため、一部高校生)	【成果】 リニューアル後初めてホールで開催された「こどもの日コンサート」は、次世代育成の側面のみならず、鑑賞者と同世代の中学生プロデューサーの視座を加えた企画性の高い公演で、高い満足度となりました。 彼ら自身の演奏でお客様をお迎えする「ロビーコンサート」や、近隣遊園地のタイアップ企画など、中学生プロデューサーの自発的な発言から形になった新企画も生まれました。 プログラムは3年目を迎え、中学生プロデューサー修了生が輩出されており、別の公演企画に携わるなど、発展的取り組みも始まりました。 【課題】 「中学生プロデューサー」は3年目となりましたが、継続参加者も含まれてきています。今後は本プロジェクトの内容を随時刷新していくことも検討していきます。
2	近隣大学との連携 ・近隣大学のアートマネジメント学生等に参加を促し、ミュージシャン・プロデューサーと市民とのつながりを多角的にするように努める。 ・アートマネジメント学科等のインターン受入	■①近隣大学学生によるインクルーシブ事業ファシリテーターの育成 ■②インターン受入	実施	①実施(2名受入) ②実施(2名受入)	①神奈川大学 2名 ②昭和音楽大学、武蔵野音楽大学 各1名	【成果】 「だれでもピアノ®」事業に於いて、神奈川大学の学生2名をファシリテーターとして育成し、参加者にとってより身近な存在として事業のサポートを行い、協働を行いました。 アートマネジメントを選考する2名の学生をインターンに迎え、公演運営、次世代育成事業運営、アウトリーチなど、実践的な育成を行いました。事業企画を志し、就職した方もいます。 【課題】 大学の社会連携センターやインターンシップ制度担当部署と連携していますが、学生の希望も鑑み、必ずマッチングが成立するとは限らないため、さらなる連携先を開拓します。
3	ホールオルガニスト制度 ・新ホールオルガニストを選定。オルガン1ドルコンサートのプロデューサーや社会包摂的なプログラムの開発を通じて、ホールオルガニストの企画力向上を図ります。	■ホールオルガニスト制度(近藤岳)の継続  ■第19期オルガニスト・インターンシップ  ■10代のためのパイプオルガン・レッスン	通年実施  実施  実施	実施  2名実施  実施	・ホールオルガニスト 近藤岳(2022年度～) ・第19期オルガニスト・インターンシップ 阿部 翠、中澤 未帆 ・10代のためのパイプオルガン・レッスン 選考10/16、レッスン11/23～3/3、修了演奏会3/10	【成果】 第2代ホールオルガニスト近藤岳の元、今年度より再開したホール・オルガニスト・インターンシップに19期生2名が取り組みました。従来のプログラムに加え、「作曲・編曲」を組み込むなど、社会環境や実践を鑑みた内容更新を行っています。 2年目を迎えた「10代のためのパイプオルガンレッスン」では、修了後もパイプオルガンレッスンを個人的に継続する受講生がいるなど、将来の演奏者育成につながる兆しを見せています。夏休みに実施する体験事業を契機に関心を持つ参加者も多く、事業をきっかけとした好循環が生まれています。 【課題】 他のホールで類をみない取り組みであるホール・オルガニスト・インターンシップですが、オルガン科が減少しオルガンを学ぶ学生が減っているなか、如何にインターン・シップ生を確保していくかが課題です。今後、大学・関係機関との連携を更に深めていくことを考えています。
4	みなとみらいスーパービッグバンド ・公募中高生によるビッグバンドをホールで編成、プロ・ミュージシャンによる指導を通じて音楽の楽しさを学ぶ。 ・大ホールでのコンサートの他、市内の小ホールや近隣商業施設でのライブも実施、横浜に所縁のあるジャズと社会の接点を深める。	□①他会場含め演奏会への出演 ■②原則週1回の練習実施(リハーサル室等)	①出演5回 ②練習通年実施	①7回 ②通年実施	①8/10、3/8 横浜みなとみらいホールでのコンサート 9/16 KANAZAWA JAZZ STREET 2023 9/17 ジュニア・ジャズ・フェスティバル 10/7 横濱ジャズフロムナード連携ライブ@NHK横浜放送局 10/22 Welcome ! ロビーコンサート@横浜市民ギャラリーあざみ野 2/10①Showcasing New Talents of JAZZ(横濱JAZZ Promnade連携)@ひまわりの郷 ②46回/年 実施  ! 6/20米国グロトン高校交流演奏会実施	【成果】 結成10周年を迎えた「みなとみらいSuper Big Band」は、米国の高校との交流事業や、コロナ禍で中止していた金沢への遠征、NHK横浜放送局のラジオ番組公開生放送出演など、ホールの「顔」として発信強化に取り組みました。 「Showcasing New Talents of JAZZ」には、プロとして活躍するOBが出演するなど、横浜市内にJAZZを届ける事業もスタートしました。 【課題】 10年継続し、様々に活躍するメンバーが生まれているため、OB・OGのメーリングリストの整備や、活動状況の把握など今後の発展に努めます。
5	横浜に生まれ育った人が必ず経験する音楽鑑賞体験を確実、効果的に実施 ・「心の教育ふれあいコンサート」は、子どもたちに本物の音楽体験を提供する主旨のもと、横浜みなとみらいホールの開館より、教育委員会との連携により継続実施。「横浜で育った人は必ず横浜みなとみらいホールでオーケストラとオルガンを聴いたことがある」という環境をより盤石にする。 ・演奏家育成事業として「金の卵見つけました。」を実施	□①心の教育ふれあいコンサート 公演回数 □②第13回「金の卵見つけました。」オーディション、演奏会 □③ハマのJACKのサロンコンサート(過去の実賞者によるコンサート)	①10日間20公演 ②各1回 ③1回	①②③実施	①9/20-22第1クール6公演、9/26-29第2クール8公演、第3クール6公演 計20公演 ②5/7オーディション予選、5/21オーディション本選、6/18演奏会 ③8/26金の卵サロンコンサート	【成果】 「心の教育ふれあいコンサート」は10日間20公演を実施。児童に加え、保護者、一般観覧者を含む幅広い世代にクラシックコンサートを体験していただくことができました。教育委員会との連携で実施した「教師のためのワークショップ」においても、「ふれあいコンサート」を契機にオルガンについて学びたい教員の皆さんが参加されるなど、関心喚起にもつながっています。 13回目を迎えた「金の卵ソリストオーディション」では受賞者コンサートのみならず、ホール独自の企画として、Xカテゴリー(10歳以下)の本選出場者に、大晦日公演にて「石田組ジュニア」として出場機会を提供する、過去の実賞者を「ランチタイムコンサート」に招くなど、その後の演奏活動につなげています。 また、こうした取り組みを活性化させるため、過去の実賞者リストを作成し、現在の活動把握を実施し、ホール事業への起用を検討しています。 【課題】 今後は横浜で新進の演奏家を応援するファン層を如何に作り出すかを検討していきます。
6	その他、使命3を達成するための主催・共催公演、評価・調査活動等	□①工藤重典フルート・シベリヤルプログラム 「工藤重典と若手フルート奏者の出会いコンサート」  ■②子どもの頃や若手の頃に横浜みなとみらいホールで活動を行い、横浜みなとみらいホールから活動を広げていったアーティストの状況把握	1回  アーティストリストの作成	実施  実施		



令和5年度 横浜みなとみらいホール 指定管理業務計画表兼評価表(自己評価・行政評価)

使命欄	使命4 年齢、性別、国籍、言語、障害の有無、経済的状況にかかわらず、あらゆる人達が音楽に触れる機会を創出します。				
評価項目		令和5年度計画		実施状況	
	指定管理者提案(要旨)	取組内容	年度目標 年度予定	年間実績	説明
1	先端的なインクルーシブ事業を東京藝術大学と連携して実施 下記事業等より社会情勢にも鑑み年間2企画程度実施する。 ・「だれでもピアノ®」プロジェクト ・「ミュージック・イン・ザ・ダーク」 ・「きこえる色、みえる音」 ・「音と光の動物園」	■①～④の実施 ①遊音地期間内に「だれでもピアノ®」体験 ②シニアのための「だれでもピアノ®」レッスンカフェ ③発達支援ワークショップ「音と光の動物園」 ④ミュージック・イン・ザ・ダーク®	各1回実施	実施	①8/4、5、9、10、11「みなとみらい遊音地」期間中にエントランスにて実施、238人が体験 ②11/9、16、24、12/7、14、23 レッスン実施。10名が参加。12/24、市庁舎アトリウムにて成果発表会を実施。 ③11/23実施 ④3/20実施。開場前にレセプションルームで鑑賞ガイドを実施。  ！2/3【協力事業】ミュージック・イン・ザ・ダーク® @フェニーチェ堺  ホールでは5回目の開催となる発達支援ワークショップ「音と光の動物園」のプログラム開発にあたっては、従来の枠組みに加え、東京藝術大学の一般教養科目「障がいとアーツ研究」受講生も参加しての実施となりました。応募倍率は2倍、満足度、次回以降の参加意向が共に90%を超え、社会ニーズに応えるプログラムとなりました。 同じく5回目の実施となる「ミュージック・イン・ザ・ダーク®」は、視覚に障がいのある演奏家とない演奏家によるアンサンブル公演で、来場者にも盲導犬ユーザーを含む多数の当事者が含まれ、演奏者と鑑賞者が共に共生社会を考える機会となりました。 来場者サポートには、みなとみらい21ロータリークラブのボランティアも参加し、地域社会で共生を共有する機会となりました。スタッフは事前にプロの指導者による講習を受ける、視覚障がいのある方へ向けた鑑賞サポートを実施する、点字パンフレット、読み上げガイドを用意する、専門家のアドバイスを受けるなど様々な対応を行った結果、顧客満足度は100%の結果となりました。 【課題】 それぞれの事業の価値や意義を広くアピールするとともに、本年度実施したように、地域社会と協働・連携しながら実施する方法を次年度以降も探ります。
2	横浜みなとみらいホールらしいインクルージョンの取り組み 新たな事業に取り組み、インクルージョンを強化、オリジナルコンテンツを発信。 ・「横浜WEBステージ」 ・「OriHime支援事業」 ・「市民オープンイベント」 ・「0歳からのコンサート」	■①横浜WEBステージで制作した作成コンテンツを継続公開 ■②市民オープンイベントとして「みなとみらい遊音地」を開催  おやこオペラ教室2023《ヘンゼルとグレーテル》ランチタイムコンサート(再掲) きょうは1日オルガンDAY オルガン・ドルコンサート(再掲) 横田博士のわくわくオルガン研究所(ラボ) はじめてのバイプオルガン ルーシーを奏でる幸せな10分間 おんがくベビーランド JACK賞受賞者コンサート 工藤重典フルート・スペシャル・プログラム(再掲) Super Big Band コンサート(再掲) どうぶつコンサート～金沢動物園の謝肉祭  ③おんがくベビーランド ④2525コンサート(再掲)	①通年公開 ②③④実施	①通年実施、 新コンテンツ公開1件 ②③④実施	①昨年度までに制作したコンテンツを継続公開するとともに、新たに「反田恭平のオルガン道場 第1回」の映像を公開した。 ②8/4-11実施 ③②のプログラムの一環として0歳からのコンサート「おんがくベビーランド」を実施 ④3/24 2525コンサート実施(使命1-1)
3	横浜市内との学校連携を通じて、あらゆる人が音楽に触れるための課題を共有 ・特別支援学校対象事業 ・アウトリーチプログラムの開発。マニュアル化 ・大規模改修工事に伴うバリアフリー化に対応、出演者や来場者にストレスのない運営を実現	□横浜市芸術文化教育プラットフォームへ参画、学校プログラムを実施	4校	①学校アウトリーチ5校 ②教師のためのワークショップ1回	①下記の5校にアウトリーチを実施 本牧中学校(合唱指導) 桜岡小学校(日本の伝統音楽を聴く/琴・三味線・尺八) 市立盲特別支援学校 アンセツシス(ピアノデュオ) 谷本小学校(外山香 箏体験) みなとみらい本町小(外山香 箏体験) ②1/24 教師のためのワークショップ(オルガン体験)  3/22 中学生招待「反田恭平JNO新曲演奏会公開リハーサル」※使命1-1 3/23 特別支援学校生招待「反田恭平JNO新曲演奏会公開ゲネプロ」※使命1-1

評価	
自己評価	行政評価
【成果】 「だれでもピアノ®」においては、主に子どもたちをターゲットとした体験事業および、シニアに向けた長期プログラムの2種を実施しました。シニアプログラムでは、東海大学機構(名古屋大学医学部)との共同研究により、ピアノレッスンがどのように心と身体の健康に影響するかを、スマートウォッチにより測定する、科学的エビデンスを取得するための実証実験に取り組みました。 ホールでは5回目の開催となる発達支援ワークショップ「音と光の動物園」のプログラム開発にあたっては、従来の枠組みに加え、東京藝術大学の一般教養科目「障がいとアーツ研究」受講生も参加しての実施となりました。応募倍率は2倍、満足度、次回以降の参加意向が共に90%を超え、社会ニーズに応えるプログラムとなりました。 同じく5回目の実施となる「ミュージック・イン・ザ・ダーク®」は、視覚に障がいのある演奏家とない演奏家によるアンサンブル公演で、来場者にも盲導犬ユーザーを含む多数の当事者が含まれ、演奏者と鑑賞者が共に共生社会を考える機会となりました。 来場者サポートには、みなとみらい21ロータリークラブのボランティアも参加し、地域社会で共生を共有する機会となりました。スタッフは事前にプロの指導者による講習を受ける、視覚障がいのある方へ向けた鑑賞サポートを実施する、点字パンフレット、読み上げガイドを用意する、専門家のアドバイスを受けるなど様々な対応を行った結果、顧客満足度は100%の結果となりました。 【課題】 それぞれの事業の価値や意義を広くアピールするとともに、本年度実施したように、地域社会と協働・連携しながら実施する方法を次年度以降も探ります。	【評価できる点】 ・社会包摂の実現を目指した取組として、「だれでもピアノ®」や「ミュージック・イン・ザ・ダーク®」、「みなとみらい遊音地」など高齢者、障がい者、子育て世代を対象とした事業が令和5年度指標を上回る6事業実施されています。計画的にあらゆる人たちが音楽に触れる機会を提供していることを評価します。  ・学校等へのアウトリーチでは、令和5年度に7事業実施され、積極的に市内の子どもたちが音楽に触れる場を提供したことを評価します。普段、横浜みなとみらいホールに来る機会がない方に、プロフェッショナルな音楽を提供することで、次世代育成の機会にもつながることもあることから、アウトリーチの意義があります。  【更なる取組を期待する点】 ・これまでの実績が形となり、今度は、協力事業として他都市のホール運営にノウハウを伝える立場と発展してきていますので、横浜みなとみらいホールが社会包摂の実現に向けて取り組む姿が、公共の音楽専門ホールとして、他のホール運営の見本となり、影響を与えるような存在になることを期待します。  ・インクルーシブ事業の「ミュージック・イン・ザ・ダーク®」や「音と光の動物園」が5回目を迎えたなか、事業内容の見直しを図るタイミングでもあります。 他ホールとのやりとりやノウハウを伝える立場になったら見えてくる、新しいニーズの筋道や改善点もあるかと思いつるので、さらに発展した取組を期待します。



令和5年度 横浜みなとみらいホール 指定管理業務計画表兼評価表（自己評価・行政評価）

評価項目		令和5年度計画		実施状況		評価	
	指定管理者提案(要旨)	取組内容	年度目標 年度予定	年間実績	説明	自己評価	行政評価
4	その他、使命4を達成するための主催・共催公演、評価・調査活動等	■あらゆる方に音楽に触れてもらうためのノウハウの蓄積	マニュアル作成（ノウハウの見える化・施設内共有）		業務計画の通り、マニュアルを作成した。	<b>【成果】</b> 「だれでもピアノ®」「音と光の動物園」「ミュージック・イン・ザ・ダーク®」など、東京藝術大学で開発されたインクルーシブプログラムについて、横浜みなとみらいホールで実践する際のマニュアル化を行いました。マニュアルは実施を検討する地方公共ホールへの提供を始めています。また、地方ホールでの事業開催にあたっての実施協力を行うなど、事業の発展に努めています。 <b>【課題】</b> マニュアル化を行いました、実施ケースにより応用が必要です。実施ケースに応じた現場ごとの臨機応変な対応を要する事業であると実感しています。	
4	横浜みなとみらいホールの音を様々な場所にお届けする	■無人オーケストラコンサート等	実施	実施	・無人オーケストラ体験会 10/14 @グランモール公園（4回） 1/13、14 @渋谷MODI  ・【協力事業】金沢区音楽振興事業 12/16 @金沢公会堂		
5	仮想フェスティバル「横浜WEBステージ」の拡充	■制作したコンテンツについては継続公開（使命4-2参照）	コンテンツ継続公開	既存コンテンツ 継続公開	・ウェブサイト上での既存コンテンツの継続公開  ・「無人オーケストラコンサート縮小版」初めての屋外展開（再掲） 10/14 @グランモール公園（4回） 1/13、14 @渋谷MODI		
						<b>【成果】</b> いすに置かれた多数のスピーカーが曲を奏でる「無人オーケストラ」を、初めて屋外で展開し、みなとみらいのグランモール公演と渋谷のMODIの2箇所で実現しました。 新型コロナ禍に、ソーシャルディスタンス確保の課題に向き合うことで、テクノロジーを用いて開発したプログラムが、アフターコロナに於いて、新しい音楽体験の創造として評価を獲得しました。このうち1公演は、テレビドラマとのタイアップの受託事業であり、「無人オーケストラ」の革新性と話題性がマスコミに伝わった好例といえます。実施にあたっては縮小版の開発を行い、様々な場所での実施に対応する工夫を凝らしています。 新規に公開した動画コンテンツ「反田恭平のオルガン道場」は公開から2週間弱で10万回再生を超え、YouTubeのフォロワー数が、2千人増加するなどの効果をもたらしました。 <b>【課題】</b> テクノロジーとアートの融合による音楽事業のさらなる展開を模索します。特に「無人オーケストラ」の発展や実施機会を検討します。	

令和5年度 横浜みなとみらいホール 指定管理業務計画表兼評価表(自己評価・行政評価)

使命欄	使命5 利用者の視点に立ち、持続可能性を高める施設運営を行い、地域社会に貢献します。				
評価項目		令和5年度計画		実施状況	
	指定管理者提案(要旨)	取組内容	年度目標 年度予定	年間実績	説明
1	社会の要請にこたえるコンサートホール運営 「お客様と共にコンサートを創り上げる」運営という特徴を活かし、演奏会以外の音楽の楽しみ方の多様化や、高齢者の利用、来館の増加等、社会の変化に対応。利用者の選択の幅を広げる運営と、すべての方が安心して楽しめる「おもてなし」の向上等、社会の要請にこたえる運営方法を検討、実施。 ・専門会社との連携や研修を通じてレセプションистのスキル向上を図る。公演マネージャーを配置し高度なスキルを持つ責任者を確保。 ・経験豊かな舞台技術スタッフを配置して、更新された設備と適切に運用。舞台利用方法を動画で紹介するなど工夫。 ・警備員を増員し、危険防止と危機管理を強化。不審者対策として来場者の入退館管理方法を強化、公演時の立哨も新たに実施。 ・公演中の写真をSNS上で共有するニーズが高まっているため、柔軟に運営。主催者や来場者をサポートし、適切な撮影場所や方法について案内。 ・一般利用申請可能日を公式ウェブサイトなどで事前に公開。自動抽選の導入や、音楽練習室利用のウェブサイト上での受付を実施。	■レセプションист及び公演マネージャーの配置 ※レセプションист研修についてはⅡ-2-2参照  ■舞台技術スタッフの配置  ■警備員の公演時立哨の実施  ■一般利用申請可能日の公開	通年実施  通年実施  通年実施  通年実施	通年実施  通年実施  通年実施  通年実施	提案書通り実施
2	安心、安全を第一に考える施設維持管理 コンサートホールとしての快適空間を維持するとともに、これまで実現してきた安心、安全な施設管理を徹底、法令等に従って適切な施設・設備の維持管理に努める。 ・新型コロナウイルス感染症の状況を考慮し、清掃箇所や回数を設定。 ・クイーンズスクエア横浜の一員として、消防計画や危機管理マニュアルを整備し、大型台風や地震などの災害に備える。訓練の実施や事業継続計画の策定を通じて、危機管理体制を構築。 ・横浜市と連絡を密に取りながら施設・設備の更新状況を把握し、最適な音楽演奏環境の提供と、適切な維持管理を実現。	①避難誘導を組み込んだ防災訓練の実施 ②横浜市等への連絡訓練への参加 ③みなとみらい地区の防災訓練への参加 ※定期点検、防災等については その他-12参照  ■危機管理マニュアルの整備	①2回 ②③参加	①2回実施	①5月:横浜市消防局作成の防災学習動画「よこはま防災e-パーク。事業所コース」を視聴。 9月:大ホールでの公演中の地震及び火災発生を想定して2回実施した。 2月:小ホールでの夜間利用時、シフト上事務室スタッフ人数も少ない状態を想定して実施。
3	周辺施設との多彩な音楽連携に向けて 音楽を通して、街の賑わい創りや産業振興、観光振興、MICE など、社会とつながる多彩な連携に取り組み、都市としての横浜の魅力発信に貢献。 ・みなとみらい21地区での音楽施設の増加に伴い、施設間の連携と情報交換を強化、共同プロモーション等を実施。 ・クイーンズスクエア横浜や横浜みなとみらい21と協力し、街の賑わいに貢献。 ・パシフィコ横浜との連携を通じてアフター・コンベンション企画を展開。音楽ホールならではの企画を提案。 ・レセプションルームでの企業連携企画の経験を基に、レクチャーコンサート等を実施。	①「Music Port YOKOHAMA」参画 ②クイーンズスクエア横浜イベント実行委員会への参加 ③お城EXPO ④パイプオルガンと横浜の街2023開催  【提案者指標】 ■地域における連携先の開拓(施設、企業) 2年目:1件/5年目:累計5件	実施	実施	①みなとみらいSTREET MUSIC審査に協力(チーフプロデューサー) ②毎月のクイーンズスクエア横浜イベント実行委員会に出席するとともに、下記を実施。 11/2-12/25 クイーンズスクエア横浜クリスマスイベント「Imaginary Tree」協力 3/24 25周年音楽祭期間中、クイーンズスクエア横浜 ステーションコンサート実施(3回) ③12/16 お城EXPOサタデーナイトプログラム スペシャルコンサート「NINJA BRASSとお忍びの姫君」@パシフィコ横浜 ④使命6-4
4	施設運営における新型コロナウイルス感染症対策	体温測定機器、手指消毒設備等は、感染症の拡大等の際は必要に応じて速やかに再設置し、感染防止に努めます。また清掃委託業者と連携し、清掃仕様や箇所、回数などにつき柔軟に対応します。	状況に応じて対応	状況に応じて対応できる体制を維持	令和5年5月8日に「横浜市文化施設における新型コロナウイルス感染症対策ガイドライン」が廃止されたことを受け、手指消毒箇所の削減、体温測定カメラ等の機器を撤去しました。今後もコロナ禍の経験을忘れず、感染症拡大の際には迅速な対応が取れるよう、機材、マニュアル類を維持します。

評価	
自己評価	行政評価
【成果】 ・2022年のホールリニューアルオープン時に新体制で再スタートしたホールレセプションистサービスについて、欠員補充の新規採用を行い、安定した運営に努めました。 ・新たに隔月での舞台スタッフとの定例ミーティングを実施し、様々な現場の課題や情報共有に努めることで、お客様サービスの向上をはかりました。 ・抽選申請受付については、詳細かつ正確な内容確認が必須である為、コロナウィルス感染症の5類移行に伴い、対面での受付方法に変更しましたが、随時予約の受付については、ご来館が難しい初申請の方とオンラインでの申請受付を行うなど、柔軟に対応しています。 ・音楽練習室を公式ウェブサイトから予約可能な登録者数は2700件を超えています。 【課題】 カスタマーハラスメントに該当する類のお客様など、これまであまり例のないトラブルが増えました。横浜市担当者に相談の上、他のお客様の迷惑と認められる場合は退館をお願いするなど、新たな対策を準備しています。そのような場合の対応スキルの取得、およびスタッフのメンタル面のケアが課題となっており、国や公文協などの情報も積極的に収集していきます。	【評価できる点】 ・施設管理について、不具合があった場合は早急に報告があり、対応もなされるため、適切な管理が行われていることを評価します。また、必要な修繕箇所をとりまとめたりリストを作成し、指定管理者から市へ共有されました。 ・防災訓練は、いつ発災しても対応できるように、様々な状況を想定して訓練を行うことが重要です。令和5年度は、厳しい状況下での訓練を実施したこと、また、課題を抽出し改善につなげたことを評価します。 【更なる取組を期待する点】 ・令和5年度は25周年音楽祭など注目されるコンテンツが豊富にあったことから、多くのメディアに取り上げられました。令和6年度以降も継続して集客を確保するため、これまでに構築してきたプレス関係者とのネットワークを活用した、計画的・戦略的な広報活動を期待します。
【成果】 2月の第3回防災訓練では、はじめての試みとして、スタッフの少ない夜間時間帯、6階の小ホールからの避難という厳しい条件下での訓練を実施しました。実際のご利用団体に協力を仰ぎ、衣装なども本番利用に近い環境を作りだしました。実施後は、全参加者へのアンケート、各セクションの責任者による振り返りミーティングによる課題の抽出を行い、マニュアル改訂に役立てたり、表示類の改善等を行っています。 【課題】 包摂事業に取り組む館として、来場者の高齢化対応だけでなく、多様な来館者に対する適切な避難誘導のあり方を常に検討・改善し続ける必要があります。 避難誘導に際し、車いす利用者を階段で避難誘導する際などに必須となってくる、周囲のご来場者への協力呼びかけについても、スタッフ間で訓練するだけでは不十分です。今後再開を検討している「避難訓練コンサート」や広報等を通じ、利用者や、すべての来場者に意識していただく方法を検討します。 ホールで鑑賞する際のコンセンサス形成を、当館より社会全体に広げていく熱意をもって取り組みます。 また、南海トラフ地震等、新しい情報を常にマニュアルに反映させるなど、チームの枠を超えてマニュアルと、訓練のアップデートを行います。 ハード面では、改修工事の対象とならなかった消防設備の老朽化が進んでおり、更新の必要性が高まっています。	【成果】 クラシック音楽の専門性を活かし、4件の企画を実施しました。 25周年音楽祭で取り組んだ「ステーションコアコンサート」では、横浜みなとみらいホールならではの一流演奏家の出演を実現し、3回で約500人の方が鑑賞し、街のにぎわい創出を実践しました。 パシフィコ横浜の「お城EXPO」と連携し取り組みでは、今年度は横浜みなとみらいホール、パシフィコ横浜の双方でコンサートを実施し、相互送客と、エリア連携を図りました。 地域のホテルやショッピングセンターと連携した取り組みでは、送客や話題創出と共に、ビフォーコンサート、アフターコンサートの提案をお客様に届けることができました。 【課題】 「MM Grass Park」「Live！横浜」など新設のイベントが増加しています。ミュージックシティ構想の唯一のクラシック音楽専門ホールとしての存在感を発揮するべく、自主事業とのバランスをとりながら新たな取組みに協力していきます。

令和5年度 横浜みなとみらいホール 指定管理業務計画表兼評価表(自己評価・行政評価)

評価項目		令和5年度計画		実施状況		評価	
	指定管理者提案(要旨)	取組内容	年度目標 年度予定	年間実績	説明	自己評価	行政評価
5	提案書-必要人材の配置と職能 ・「高い芸術性と創造性を発揮し街の魅力を発信するブランド」となり「市民が生き抜く力を湧き立たせる精神的基盤」となるため、高い専門性を発揮する組織とする。 ・発信力を高めるために、事業企画グループに広報PRチームを位置づけ、事業制作力と広報発信力のスキルを高め企画力を強化。 ・持続可能で安定した運営を実現するために、横断的かつ効率的な館の運営を実現し質の高いサービスを提供。 ※組織図については、業務計画書に記載	■館長 ■経営責任者(総支配人) ■运营管理責任者(経営グループ長) ■事業企画責任者(事業企画グループ長) ■管理統括(管理チームリーダー) ■運営統括(運営チームリーダー) ■事業企画統括(事業企画チームリーダー) ■広報PR統括(広報チームリーダー) ■総務担当 庶務経理・施設管理・チケットセンター担当 ■運営担当 貸館、レセプションист担当等 ■事業制作担当 ■広報PR担当 ■公演マネージャー ■レセプションист ■チケットセンター／受付スタッフ	配置 配置 各1名配置 各1名配置 配置 配置 配置 配置 計3名配置 約75名配置 約20名配置	配置 配置 配置 各1名配置 配置 配置 配置 配置 計3名配置 約75名配置 約20名配置	人員配置、勤務シフト、開館時間については提案書通り実施 休館日については、主催事業リハーサル実施日につき変更があった。	【成果】 第3期指定期間では、芸術監督としての館長のもと、発信力を高めるために、事業制作チームと広報チームを一体化し企画力と発信力の強化をはかっています。また、チケットセンター、レセプションист、受付スタッフを経営グループにて統括管理し横断的かつ効率的な館の運営と質の高いサービス提供を目指しました。 各グループ職員については、OJT及び財団主催の研修(その他提案事項-5)等により専門性の向上に努めました。受付スタッフやレセプションистについても、定期的、段階的な研修により人材の定着とスキルアップを図りました。	
6	提案書-勤務シフト ・A＝早番(8:45～17:30)、B＝準早番(10:00～18:45)、C＝遅番(13:15～22:00)の3シフト制を基本とし、開館時間(午前 9時から午後 10時)を効率的にカバー。 ・代表電話の受付時間は午前10時から午後6時を基本とし、それ以外の時間に必要な連絡は部門代表メールなどで対応。	■A～Cの3シフト勤務 ■電話受付10時～18時	実施 実施	実施		【成果】 勤務シフト、開館日、開館時間、電話受付時間は提案書に基づき実施、利用者にご不便をかけないよう、代表メール等でも随時連絡や問い合わせを受け付けました。	
7	提案書-開館時間 ・午前9時～午後10時(条例施行規則)	■開館時間 午前9時～午後10時	実施	実施		【課題】 防災訓練等を通じ、特に人員が少なくなる夜間時間帯等、危機管理上の課題を抽出・整理しています。設備・警備スタッフ等とも連携しながら、シフトに関わらず誰でも対応できるよう、マニュアルに基づいた訓練等を実施し、利用者・スタッフともに安心できる体制をより強固にしていく必要があります。	
8	提案書-休館日 ・毎月第 2・4月曜日を、基本の休館日とする。 ・8月及び 1月、2月にパイプオルガン、コンサートピアノ、ホール音響設備等の定期メンテナンスのために、それぞれ4日間の休館日を設ける。 ・年始休館(1月 1日から1月3日)とあわせ、年間の休館日は35日、開館日は330日とする。	□休館日 年間31日	31日	— 30日			
9	提案書-人材育成と配置 ・音楽分野の専門職員はクラシック音楽を中心とした音楽コンテンツ制作に関する知識と経験を深め、企画・制作力を向上させる。 ・当財団「人材マネジメントポリシー」に基づき、「専門人材研修」を横断的に実施し、プロデューサー候補を専門的に育成。 ・将来のプロデューサー候補に対して他団体への派遣や国内外での研修機会を提供。 ・財団が計画的に実施する研修に参加し、経理、労務、施設管理、広報、個人情報保護、人権、コンプライアンスなど、運営に必要な多岐にわたる研修に参加。 ・神奈川県公立文化施設協議会や他の外部団体主催の研修に参加、文化施設が直面する課題に対する理解を深める。 ・ホスピタリティ向上のために、レセプションистには専門的なサービス提供のための研修を実施。	■専門人材研修 ■当財団の計画に基づく内部研修 ■公文協他外部団体の主催する研修 ■公演マネージャー、レセプションистに対する研修	参加 参加 参加 実施	参加 参加 参加 実施	提案書並びに年次業務計画に基づき実施。 【財団主催研修】 6/22、8/25、9/25、10/20 専門職(舞台芸術系) 7/12 専門職(美術系) 7/21 階層別(グループ長) 9/29 階層別(チームリーダー) 7/14、8/18、9/15 階層別(職員) 11/21(広報) 【レセプションист研修】 6/15、7/10、8/16、17、10/17、2/25、3/20	【成果】 ・財団専門職制度に基づき、事業企画G職員は財団の実施する専門人材研修に積極的に参加し、研修の中からプロジェクトを立ち上げ、事業化するなど、研鑽に励みました。 ・レセプションист採用時の研修に加え、サブマネージャーを対象にしたスキルアップの研修やチーフ、コーチャーに必要な知識を身に付ける研修を実施しました。また、主催事業との関連で、視覚障がい者のアテンドについて学ぶ研修や、コミュニケーションの向上をはかる為の専門研修も実施し、様々なコミュニケーションスキルのアップに努めました。 ・県公文協(神奈川県公立文化施設協議会)の研修に積極的に参加し、インボイス制度への対応等を円滑に進めました。 ・公演マネージャー1名がサービス介助士資格を取得しました。取得者による報告会を実施し職員間で基礎知識を共有しました。	
10	提案書-チームワーク醸成 ・事業企画グループ、経営グループともに、日常的なOJTと情報共有を重視し若手職員を育成。 ・催し物やシンポジウムへの参加を奨励し、その成果や感想を共有する文化を醸成する。 ・週1回の企画運営会議等各種定例の会議を通じて、方針の決定、周知や情報共有を促進。	■企画運営会議(週 1回)年間約50回 ■常駐スタッフを委託している企業との定例会	原則週1回 実施	50回実施 実施	提案書並びに年次業務計画に基づき実施。	【課題】 近年増えてきた、カスタマーハラスメント的なお客様への対応も問題になっており、スタッフのメンタル面のケアも課題になりつつある状況です。国や公文協などが発信する情報も参考にしながら対応していきます。	



令和5年度 横浜みなとみらいホール 指定管理業務計画表兼評価表（自己評価・行政評価）

評価項目		令和5年度計画		実施状況		評価	
	指定管理者提案(要旨)	取組内容	年度目標 年度予定	年間実績	説明	自己評価	行政評価
11	提案書-利用料金 ①大小ホールとも、レセプションist基本配置は利用料金に含み、必要な場合有料での追加配置を承る。 ②大ホール利用における基本時間外は、30分単位の延長料金で対応。 ③大ホールの1階客席のみの利用、大小ホールの準備・片付け・リハーサルでの利用 及び、全日、本公演での利用に対し特別割引を適用。またレセプションルームを大小ホールとあわせて利用する場合、施設利用料金をリハーサル室と同料金に割引。 ④ホールの施設利用料金は2分割の前払とし、銀行振込やコンビニエンスストアでの払込を、附帯設備料金は利用終了時の支払いを原則とし、クレジットカード、ICカード決済を導入。法人利用の場合後日振込対応。 ⑤利用取消の場合、利用日の3 か月前までは既納料金の70%を、それ以降は100%を取消料とする。利用の一部変更については、変更後の利用料金に充当するなど柔軟に対応。  ⑥【減免】以下の通り運用 ・横浜市主催事業：利用料金・附帯設備料金ともに20%減免。 ・ホール主催事業：利用料金・附帯付帯設備料金ともに全額減免。 ・ホール共催事業：事業内容及び共催者との協議で、一部もしくは全額を減免する場合がある。 ・若手芸術家育成のため、音大等のオルガン専攻授業につき、ホール利用料金及びパイプオルガン利用料金を年間5回まで減免。6回目からはパイプオルガン利用料金のみを徴収。 ・パイプオルガンの「レジストレーション」について、1公演につき2区分までの施設利用料金を減免。利用者はパイプオルガン利用料金のみを負担。	■本公演時にレセプションistを配置（左記①） ・大ホール A型、B型のフロア構成に応じた基本配置 ・小ホール 1、5、6階各1名を基本に計3名 ・追加配置は、1名1,300円/時間	実施	実施	提案書並びに業務の基準に基づき実施。  【オルガン科授業実績】 ・武蔵野音楽大学 ・東京藝術大学 ・東京基督教大学 ・昭和音楽大学/昭和音楽大学短期大学部 ・フェリス学院大学 ・国立音楽大学	【成果】 正確かつ遺漏なく利用許可申請事務および利用料金の収受を行い、適切な施設利用提供に努めました。  【課題】 貸館でのパイオルガン利用が増加傾向にあります。ハイシーズンにはレジストレーションの枠を確保することが難しい月もあり、円滑にオルガンをご利用頂けるよう、引き続き、早期のオルガン利用確認に努めます。	
		■大ホールの延長利用（左記②） ・30分単位で柔軟に対応する	実施	実施			
		■特別割引（左記③） ・大ホール1階客席のみの利用 30%割引 ・準備・片付け、リハーサル利用 50%割引 ・全日3区分を本公演で利用 10%割引 ・レセプションルームのホール同時利用割引	実施	実施			
		■施設利用料金及び附帯設備利用料金（左記④） ・当館の定めた支払方法により適切に収受する。	実施	実施			
		■利用取消（左記⑤） ・利用日の3か月前までは既納料金の70%、それ以降100%を取消料とする。 ・利用変更等には柔軟に対応	実施	実施			
		■減免（左記⑥） ・横浜市主催事業、ホール主催・共催、レジストレーション利用、オルガン専攻授業利用に適用	実施	実施			
12	提案書-指定管理料のみに依存しない収入構造 ・助成金：助成金情報を網羅的に収集、事業に最適な助成制度を検討。事業価値を綿密に精査、確実な助成金獲得を目指す。新たな制度にも目を向け、獲得の可能性を追求する。 ・寄附金：ホール顧客層をターゲットにした寄付金メニューを開発。税制優遇などのメリットを提供。 ・協賛金：企業とのネットワークを活かし、協賛金の獲得に努めます。 ・アフターコンベンション：大小ホールのミニコンサートとホワイエ、レセプションルームのパーティーを組み込んだアフターコンベンションメニューの開発。パシフィコ横浜での国際会議との連携。 ・レセプションルームの利用促進：大小ホール公演とのセット割引料金を設定、開演前のVIPへの接遇サービスやプレイベント開催など活用方法を提案。	□助成金、寄附金、協賛金の獲得	計27,200千円	計11,196千円	【助成】 文化庁文化芸術振興費補助金「劇場・音楽堂機能強化推進事業」、文化庁劇場・音楽堂等の子供鑑賞体験支援事業補助金、神奈川県マガカル展開促進補助金  【事業協賛】 Piascore株式会社、株式会社ヤマハミュージックジャパン、日本ゾーディアック株式会社、株式会社ランディックス、みなとみらい21ロータリークラブ  【共催】 東海国立大学機構 健康医療ライフデザイン総合研究教育拠点（C-REX）  【法人スポンサー】 一般社団法人横浜みなとみらい21、株式会社三陽物産、株式会社ヨコハマ機工、株式会社 神奈川銀行、リンクイノベーションズ株式会社、株式会社 ムサ・ジャパン、神奈川トヨタ自動車株式会社	【成果】 文化庁文化芸術振興費補助金の減額を受け、その他の助成金の獲得、事業協賛等、自己資金獲得に取り組みました。特に東海国立大学機構（名古屋大学）、みなとみらい21ロータリークラブといった、共同実施型の支援は新しい形の支援となりました。 文化庁文化芸術進行補助金プログラムディレクターやプログラムオフィサーとの面談など、次年度獲得へ向けての対策にも努めました。  【課題】 次年度以降もパートナーシップによる事業実施や、小口の協賛金獲得など多様な収益の獲得を目指します。	
		□利用料金収入	207,850千円以上	19,662千円	施設利用料及び附帯設備利用料	【成果】 昨年度同様の高い施設利用率でしたが、修繕対応や25周年音楽祭開催に伴い、貸館利用に供する日数が減少したことから、施設利用料金は目標値に至りませんでした。  【課題】 コロナ禍や大規模改修工事による長期休館の影響など、利用者が戻っていない状況もあり、引き続き、空き状況のPRや新たなホール利用の開拓に取り組んでいく必要があります。	
13	提案書-経費削減等効率的運営の努力 ・ICT活用：予約システムの機能拡張による、公式ウェブサイトへの公演情報の入力により、情報の齟齬や二度手間を省く。 ・光熱水費：年間を通して一定の湿度に調整するのではなく、実態に即して季節に応じた適切な設定に変更し経費節減につなげる。	□光熱水費	137,340千円未満	98,152千円	クイーンズスクエア横浜にて一括契約。デマンド及び使用量に応じ管理組合に支払い	【成果】 月々の電気、冷温水、水道使用量を逐次把握し、過去データと比較分析を行いながら年度の執行計画に反映させ、余剰分を修繕費に充当するなど当該分析結果をホール経営に活用しました。設備スタッフと連携しながら光熱水費の削減に努めた結果、予算を下回る見通しを立てることができたため、必要な修繕に予算を活用するなど、館全体の経営状況を見極め予算執行しました。  【課題】 改修工事で更新された人感センサー付きLED照明、節水トイレ等好材料がある一方、燃料単価上昇による従量料金の高騰が課題です。コンサートホールとしての安全で快適な環境を提供しながら、全館的に光熱水費の節減に取り組んでいます。 みなとみらい地区は、国の「脱炭素先行地域」となっており、クイーンズスクエア横浜全体で再生可能エネルギー活用に着手しています。みなとみらい地区に位置する、横浜市を代表する文化施設として、引き続き、節減に取り組みながら持続可能な社会の実現に貢献します。	





総括	評価	
	自己評価	行政評価
	<p>令和5年度は、各使命の達成に向けた取組みを推進しました。また、開館25周年の節目の年度として、「これまでの活動の顕在化」と「今後に活かす新たな挑戦」に取組み、将来に向けた飛躍の礎と、国内有数のコンサートホールとして更なる存在感発揮のための素地をつくりました。</p> <p>【使命1】公演実施方法の見直し・ステークホルダーとの連携など様々な工夫によって、定量数値目標を上回る実績をあげました。また、過去40年分の記録をまとめた「横浜市招待国際ピアノ演奏会」のアーカイブを公開し、今後の横浜の音楽文化の発展につながる素地をつくりました。</p> <p>国内外で活躍する演奏家とともに創造性発揮を目指す“プロデューサー・イン・レジデンス事業”では、「横浜みなとみらいホール25周年音楽祭」(6日間27企画、延べ11,192人参加)開催によって、国内外で高い評価を受ける演奏家が集い、質の高い企画を展開しました。更に、次世代育成・インクルージョンの視点も含め、横浜から次代の音楽文化を拓く取組みとして総合的に発信したことであらゆる市民に開かれた音楽祭となり、横浜の音楽文化を担う中核施設としての存在感発揮につなげました。【掲載実績：新聞10・専門誌3・フリーペーパー1・web8/有料広告・転載含まず：「よく練られた楽しい企画ばかりで、今後を期待させる音楽祭だった。」(神奈川新聞令和6年4月19日)、「個性あるコンサートを様々な企画 プラームスの音楽の魅力を見事に表現」(音楽の友5月号 令和6年4月18日発行)、「若い世代や障害者と共鳴」(日本経済新聞 令和6年3月20日)】</p> <p>【使命2】質の高いプロフェッショナル公演誘致から市民の文化活動支援まで、これまで培ってきた運営ノウハウの提供や相談・アドバイスをを行い、利用者アンケートで高い満足度(4.8点)を獲得するなど音楽専門ホールとしてのコーディネート機能を発揮しました。大・小ホールとも95%以上の高稼働率ですが、音楽練習室(70%)の利用率向上と利用料金収入全体の底上げが課題です。また、市内音楽団体の活動状況の調査では、今後取組むべき課題を把握しました。</p> <p>【使命3】通常の次世代育成事業に加えて、「横浜みなとみらいホール25周年音楽祭」を捉え、子どもたちへ演奏体験・公開リハーサル参加・中学生プロデューサーの企画制作など“演奏する人・楽しむ人・つくる人”の枠組みを越えて広く音楽に親しみ、豊かな感性を育む機会を拡充しました。子どもたちの参画がアーティスト側に大きな刺激を与えるといった、相乗効果も生まれました。また、子ども時代に当館で活動し活躍を広げた演奏家83名の活動状況を把握・リスト化、ゆかりの演奏家として今後の人材還流のための素地を築きました。</p> <p>【使命4】テクノロジー活用など横浜みなとみらいホールらしいインクルージョン事業も実施しながら、横浜市の公共施設としてあらゆる方が音楽の楽しさを享受できるプログラムを推進して指標を達成しました。様々なステークホルダーとの連携・協働で実施した社会包摂プログラムは、ホールが地域社会のハブとなり音楽を通じた共生社会実現に向けたメッセージをより広く発信することにつながりました。また、インクルージョン事業実施のマニュアルを作成し、今後の事業の充実・地域施設への共有の準備を進めました。</p> <p>【使命5】現場の課題に沿った研修を実施し、スタッフのスキルアップとサービス向上に努めました。法令等に則った点検・訓練を実施し、安全安心な施設を提供しました。リニューアル・オープン後、改めてエリア内企業・商業施設等との関係再構築を推進し、ホールの活動と地域の活動を結びつけ、“音楽のある街”としての賑わいづくりに寄与しました。</p> <p>【課題】 コロナ後の社会生活の変化・物価高騰など、様々な社会の変化に柔軟に対応する力が求められています。特に、安定的な施設運営・事業実施のため、全体の収益構造の見直しが必要です。既存の利用料金収入・入場料収入の増加策などに加え、より多様な外部資金を獲得していく工夫を引き続き検討していきます。</p>	<p>・各使命における定量指標は概ね達成できていることを評価します。一方、定性指標では、令和5年度指標が8年度達成指標に向けた作業工程となっているものがあります。前倒しが対応可能な取組はすみやかに取組み、令和8年度指標の達成を着実なものとするよう期待します。</p> <p>・横浜みなとみらいホール25周年音楽祭では、25年で紡いだネットワークを生かしながら、ホールの歴史と未来への可能性を示した公演を実施し、横浜の音楽文化に彩りを与えたことを評価します。</p> <p>・音楽練習室の利用率について、令和8年度指標85%の達成に向け、利用者目線の利用しやすい貸館運営を心がけていただけでなく、音楽練習室を利用していない方の意見をお聞きするなど、市民の音楽活動を支える取組を期待します。</p> <p>・次世代育成については、若者から夢を実現できる場所としてホールが愛されるきっかけになる取組でもあり、これからの音楽文化の活性化につながる取組になりますので、引き続き、事業の実施をお願いします。</p> <p>・インクルーシブ事業では、視覚に障がいのある演奏家が出演する「ミュージック・イン・ザ・ダーク®」など公演を実施するとともに、専門家のアドバイスを踏まえて障がいのある利用者の支援にも取り組み、受け入れ態勢を整えて実施したことを評価します。また、動画コンテンツの提供に継続して取り組んでおり、ホールの外からでも音楽に触れ合える取組を関係者と連携しながら進めていることを評価します。</p> <p>・様々な事業を行いました、事業の振り返りを行うとともに事業の目的ごとに整理し、施設経営の視点も含めて次年度以降の実施を検討してください。</p> <p>・収支決算は2,264万円の支出超過となりました。光熱水費が予算に比べ約3,918万円減少となったものの、収入では国庫助成金収入が1,805万円減少し、支出では事業費が1,120万円増加するなど、収支の改善ができませんでした。</p> <p>例えば、文化庁の補助金収入が計画を下回ることが判明した段階で収支改善を図る取組を行うべきところ、25周年音楽祭を含む事業収支をみると、事業費が1,120万円の増となった一方、事業収入は394万円の増にとどまり、収支悪化を招いています。</p> <p>自主事業の実施回数や各事業の収入見込みをどのように算定したのか等、詳細な分析、検証が行う必要があります。あわせて利用料金収入も予算額と決算額の差額が大きい結果となっています。持続的な施設経営を意識した収支計画の策定に努めてください。</p>